

第3章

地域別構想

1 北部地域

2 中部地域

3 南西部地域

4 南部地域

5 中南部地域

6 中東部地域

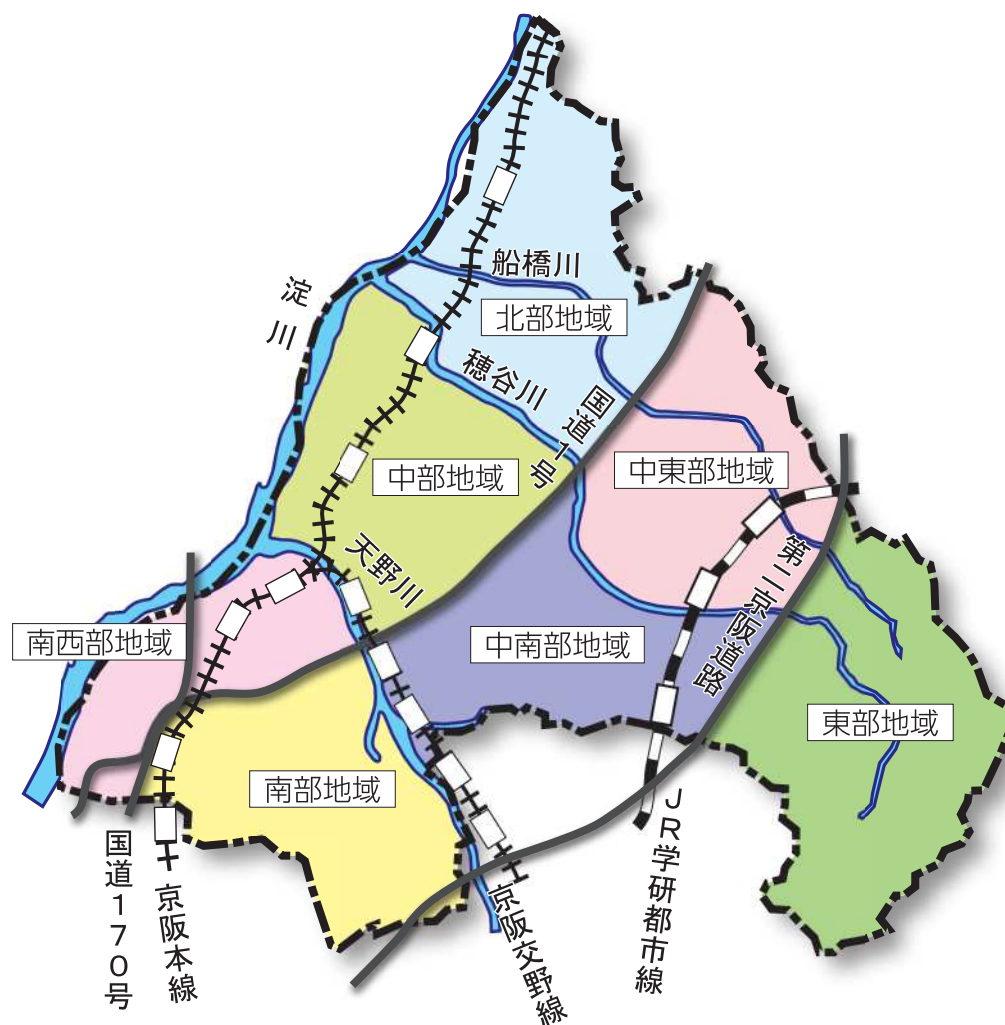
7 東部地域

地域別構想の考え方

地域別構想は、全体構想における方針などを受け、それぞれの地域の特徴や資源を踏まえて、地域単位での都市づくりの方針を定めたものです。

地域の区分

地域別構想では、枚方市を穂谷川、天野川、国道1号や第二京阪道路などによって区分される、次のような7つの地域ごとに都市づくりを考えていきます。



土地利用の区分



広域都市機能集積ゾーン

広域エリアの中心的な機能を担うため、商業・業務・行政などの多様な都市機能の集積や、それらと調和した魅力あふれる市街地の形成を促進し、都市居住を集積



生活便利ゾーン

公共交通の交通利便を生かし、周辺地域における居住者の生活利便を向上



環境共生居住ゾーン

農地などの地域資源の保全・活用を図るとともに、地域環境と調和した良好な居住環境を保全



住工協調ゾーン

住宅地の居住環境の保全や調和を図りながら、主として商業や工業などの複合的な産業を集積



自然環境・農地ゾーン

緑や水辺空間などの自然環境の保全や農地・集落環境を維持・保全



都市機能集積ゾーン

周辺エリアの中心的な機能を担うため、生活サービスなどの多様な都市機能の集積や、都市機能と調和した利便性が高く良好な居住環境の形成を促進し、都市居住を誘導



居住ゾーン

生活サービスをはじめとする都市機能にアクセスすることができる良好な居住環境を形成



工業集積ゾーン

主要な幹線道路の交通利便を生かし、主として工業などの産業を集積



沿道産業集積ゾーン

幹線道路の沿道という立地条件を生かし、主として沿道型商業、工業及び流通業務の産業集積や操業環境を保全



環境共生ゾーン

市街化の抑制を基本的な考え方として、地域環境と調和を図りながら、主として農地を保全・活用

道路・公共交通の区分



国土幹線道路

国土の広域連携などを担う道路



幹線道路

国道1号、国道170号をはじめとして、近隣都市圏との交流を担いつつ都市の骨格となる道路



主要なバス路線

公共交通（鉄道、バス）における、利便性の高い将来ネットワーク



JR 学研都市線



広域幹線道路

広域都市の連携強化などを図る道路



補助幹線道路

各地域から発生する交通を円滑に導く機能を担い、幹線道路の交通機能を補完し、周辺都市や都市拠点間などの相互の有機的な交流を図る主要な道路



京阪本線、京阪交野線

第
1
章

第
2
章

第
3
章

第
4
章

付
属
資
料
編

1

北部地域

北部地域は、本市の最北部に位置し、地域の北東は京都府八幡市に一部が接しており、西端は淀川に接しています。

面積は約 11.0 平方キロメートルで、地域はおおむね平坦ですが、地域の北東部は丘陵となっています。



1 地域の状況

1) 地域の特徴・地域資源

日本書紀にも登場する楠葉は、継体天皇が樟葉宮で即位するなど古い歴史が残された地区です。昭和30年代に入って八幡丘陵を削った土で楠葉にあった湿地が埋められ、住宅団地の造成とともに、その核として樟葉駅が整備されました。樟葉駅周辺には、くずはモールなどの商業施設、大阪歯科大学などの大学施設が立地しています。牧野駅周辺では、昭和初期に京阪電鉄が歯科医専、女子医専そして美術学校を誘致し、現在も文教地区のたたずまいを残しています。

地域の南東部は、農業の盛んな地区でしたが、国道1号バイパス（枚方バイパス）開通とともに、枚方企業団地がつくられ、周辺では住宅開発が進みました。

歴史文化的資源としては、楠葉台場跡や交野天神社本殿、交野天神社末社八幡神社本殿、片埜神社本殿などの文化財があります。自然資源としては、淀川河川敷の自然植生以外の自然樹林は少ないですが、交野天神社の鎮守の森などが残されています。

資源図



樟葉駅



枚方企業団地



大阪歯科大学



市民の森（鏡伝池）



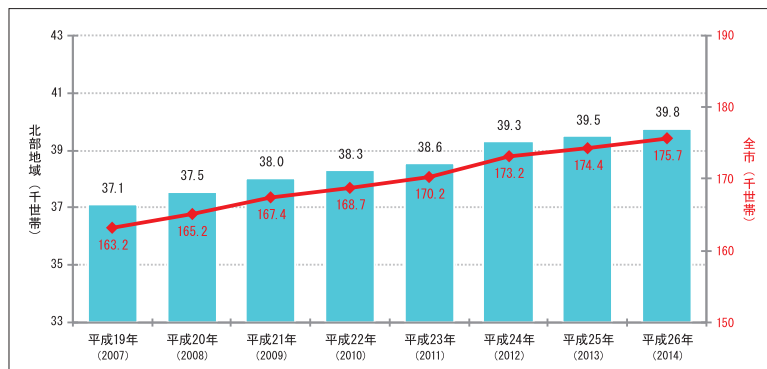
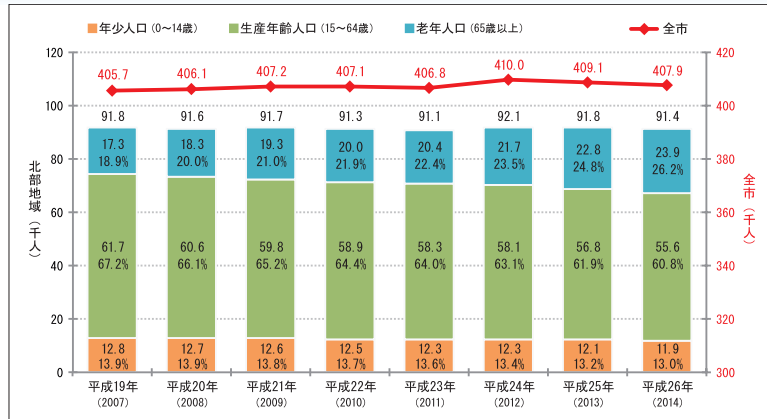
樟葉宮跡の杜

2) 人口・世帯数

北部地域の人口は約9万1千人となっています。

市全体の人口が7年前と比べ、約0.5%増加しているのに対し、北部地域では約0.4%（約4百人）減少しています。また、平成26（2014）年の高齢者数は約2万4千人、高齢化率は約26.2%となっており、7年前より約7.3ポイント増加しています。

世帯数は7年前と比べ、市全体で約7.7%増加しているのに対し、北部地域では約2万7千世帯、約7.3%の増加となっており、市全体と概ね同様の増加率で推移しています。



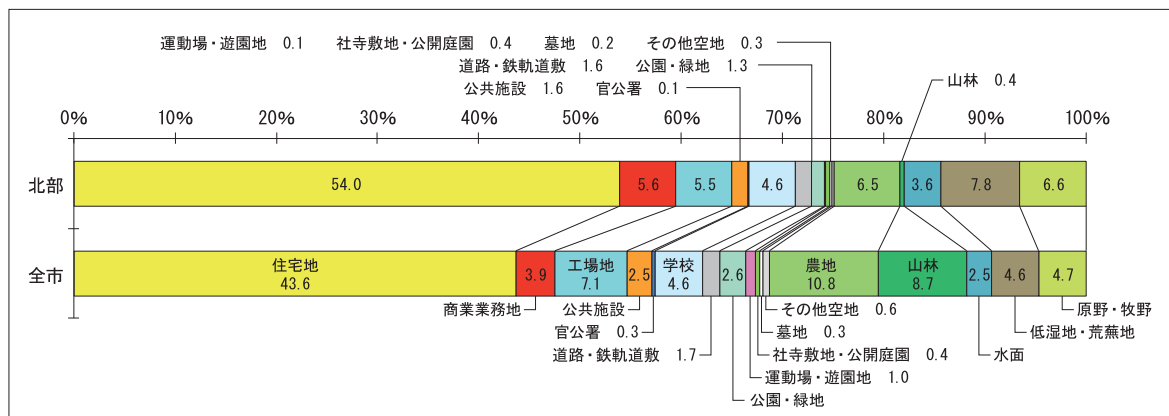
出典：枚方市統計書（平成19年～平成26年）より集計

3) 土地利用

地域の約54%を住宅地が占めており、全市の平均より高くなっています。

樟葉駅、牧野駅の周辺は商業系の土地利用となっており、地域の北東部における国道1号沿道には、企業団地が立地しており、工業系の土地利用が図られています。

市街地の内側に穴抜き形状の市街化調整区域があり、農地が約7%程度残されているものの全市平均の約11%に対して少なくなっているなど、市街化が進んでいる状況となっています。



出典：都市計画基礎調査（平成22年度）大阪府調査より集計

4) 都市基盤

交通

国道 1 号や京都守口線では第二京阪道路全線開通の効果を受け、交通渋滞の緩和がみられます。地域の中心部には、新名神高速道路の整備が進められています。概ね市街地の地下を通過しますが、淀川近くで地上に出て、高槻市に渡る計画です。

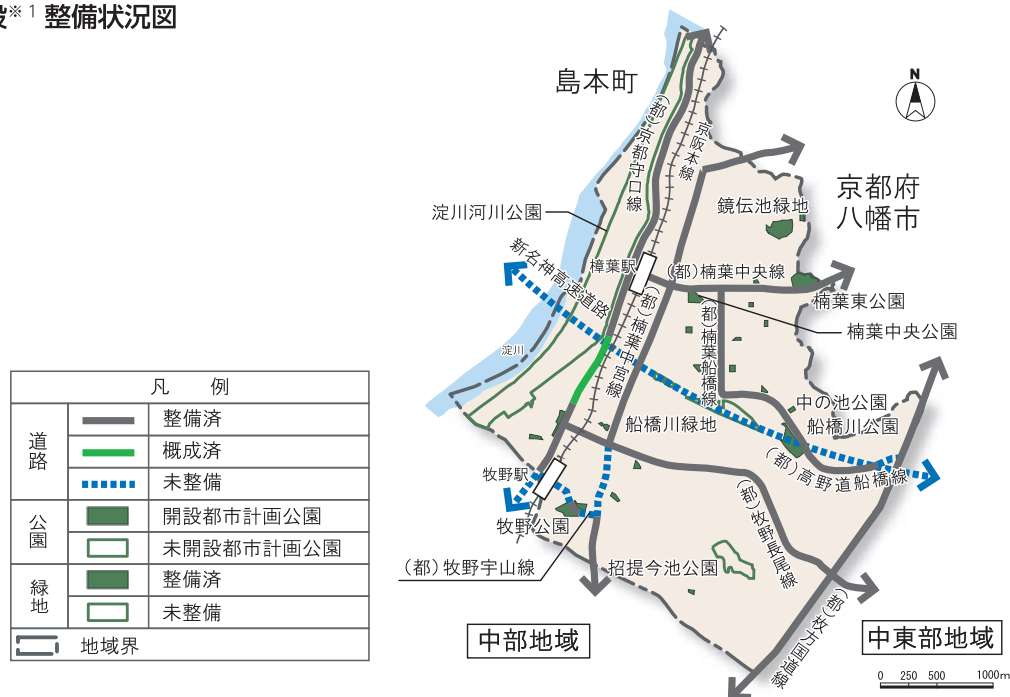
樟葉駅と牧野駅は駅前広場が整備されており、鉄道やバスなどの交通結節点が形成されています。

公園、緑地

中の池公園や牧野公園をはじめとして、主要な公園（近隣公園以上）は、面積約 17.4ha、6 箇所として都市計画決定されています。計画面積に対する開設率は約 51%となっており、招提今池公園などの未着手の公園が残されている状況です。

地域内には、淀川河川公園をはじめとして、3 箇所の緑地が都市計画に定められており、鏡伝池緑地は整備済みですが、残りの 2 箇所の緑地は未整備の状況です。

都市施設※1 整備状況図



※ 1：都市施設

都市活動を支える主要な施設として都市計画に定められるべき施設のことで、道路・都市高速鉄道など、公園・緑地など、水道・ごみ焼却場など、河川・運河などがあります。

5) 市街地

北部地域では、昭和30年代後半から北部土地区画整理事業や大規模な開発事業が行われ、樟葉駅を中心とした住宅地が広がり、国道1号沿道には交通利便を生かした企業団地の整備が行われました。

平成20（2008）年より市街地再開発事業が行われ、牧野駅の駅前広場とその周辺が整備されました。

また、橋本駅に近接する楠葉中之芝地区においては、土地区画整理事業が行われており、生活利便施設が立地する商業地や良好な居住環境の住宅地などの計画的な市街地整備が進められています。

2 地域の主要課題

❖ 樟葉駅周辺の拠点性の強化

樟葉駅周辺は人が集い交流し、地域の生活・文化情報の拠点として地域に活気をもたらし続けるような魅力ある都市環境を形成していくことが求められています。

❖ 牧野駅周辺の拠点性の強化

牧野駅周辺では地区拠点として、日常生活に必要な生活サービスに関わる都市機能を充実させるとともに、鉄道駅周辺におけるバリアフリー化を促進するなど安全で快適な歩行空間の確保とともに、賑わいとゆとりのある空間の形成が求められています。

❖ 浸水被害の軽減

台風や局地的集中豪雨などの降雨時には、浸水する地域が見られるなど浸水被害を軽減させる取り組みが求められています。

❖ 枚方企業団地の操業環境

枚方企業団地では操業環境の向上を図るため、操業環境の形成や生産基盤の強化などが求められています。

❖ 淀川の自然環境などの保全、活用

本地域は市街化が進んでおり市街地に残された自然が少なくなっているため、淀川の自然環境、都市農地などの保全や活用を図っていくことが求められています。

❖ 歴史文化的資源の保全、活用

史跡楠葉台場跡や史跡九頭神廃寺などの貴重な歴史文化的資源の保全や活用を図るとともに、後世に伝える取り組みが求められています。

3 地域の都市づくりの方針

便利で快適に暮らせる計画的な都市づくり

- 樟葉駅周辺の広域的な都市機能を集積する拠点の形成

樟葉駅周辺においては、広域エリアの中心となる商業、業務、医療などの都市機能の集積を図ります。

- 牧野駅周辺、橋本駅周辺の生活サービスなどの都市機能を集積する拠点の形成

牧野駅及び橋本駅周辺においては、周辺エリアの中心となる生活サービスなどの都市機能の集積を図ります。

- 鉄道駅周辺における多様な都市機能と調和した良好な居住環境の形成と都市居住の促進

鉄道駅周辺においては、多様な都市機能と調和した利便性が高く良好な居住環境を形成し、都市居住の促進を図ります。

- 楠葉中之芝地区における土地区画整理事業の実施

楠葉中之芝地区における土地区画整理事業による計画的な市街地整備を行います。

- 枚方企業団地や国道1号沿道地域における産業集積

幹線道路の交通利便を生かし、枚方企業団地や国道1号沿道地域における産業集積を図ります。

都市基盤や公共交通ネットワークが充実した都市づくり

- 樟葉駅前の交通機能の強化

樟葉駅前における道路や駅前広場の整備などによる交通結節点機能の強化や樟葉駅前を通過する車両の流入を抑制するとともに、賑わいとゆとりのある駅空間の形成を図ります。

- 新名神高速道路の整備促進

広域都市圏との交流促進や、災害時の緊急輸送ルートの確保などが期待される新名神高速道路の整備を促進します。

- 楠葉中宮線の整備

樟葉駅へアクセスし、交通利便性の向上や、安全な歩行者空間の確保などを図る楠葉中宮線を整備します。

安全安心の都市づくり

● 楠葉排水区の浸水被害軽減対策

台風や局地的集中豪雨などの降雨時における浸水被害の軽減に向けて、楠葉排水区浸水被害軽減総合計画に基づく雨水貯留管※¹を整備します。

● 船橋川雨水支線の計画的な下水道整備

楠葉排水区における10年確率の降雨（時間雨量 約54.4mm）に対応する船橋本町雨水支線を整備します。

● 鉄道駅周辺におけるバリアフリー化の促進

樟葉駅及び牧野駅周辺の道路や主要な公共施設などにおいては、安全かつ円滑な移動などができるよう、枚方市バリアフリー基本構想の取り組みをはじめとした、バリアフリー化を促進します。

水や緑の豊かな地域資源を生かし、質が高く潤いのある都市づくり

● 淀川の自然環境や景観の保全、活用

淀川の四季や魅力を感じることができるよう、淀川の自然環境や景観を保全しつつ、身近に憩い潤う場の確保を図ります。

● 天満川緑道の整備

連続性のある緑化空間の確保を図るとともに、災害時における避難路の確保を図るために天満川緑道を整備します。

● 住宅地と工場の混在抑制

企業団地においては都市計画制度などの活用により、住宅などの用途と混在することを抑制し、工場の操業環境の維持、増進を図るとともに、周辺の住宅地と近接する地域においては、工場の外延部に緩衝緑地帯の設置や壁面緑化を誘導するなど、良好な都市環境の形成を図ります。

● 牧野高校周辺の居住環境の保全

牧野高校周辺などの市街化調整区域において、既に形成されている住宅地については居住環境の保全を図ります。

● 歴史文化的資源の保全、活用

交野天神社本殿、交野天神社末社八幡神社本殿、史跡九頭神廃寺、史跡楠葉台場跡などの歴史文化的資源を保全し、歴史を身近に感じることができるよう活用を図ります。

● 都市農地の保全、活用

都市農地は、良好な景観の形成や自然とのふれあいの場、防災機能などの多様な機能を有しており、保全や活用を図ります。

※ 1：雨水貯留管

大雨が降ったときに、道路や家に水があふれないように、一時的に雨水を貯めておくものことです。貯めた雨水は晴れた日に処理場で処理した後、川に戻します。

地域別方針図



中部地域

中東部地域



0 250 500 1000m

凡例

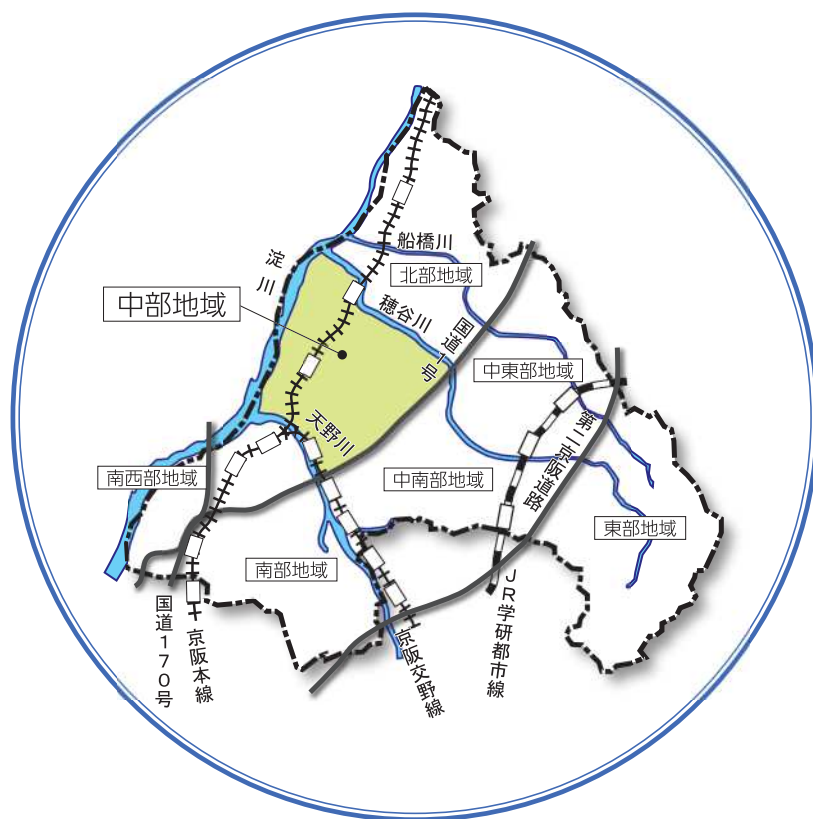
都市的	都市系		都市機能集積ゾーン
			居住ゾーン
			環境共生居住ゾーン
	産業系		工業集積ゾーン
			住工協調ゾーン
環境保全	自然系		沿道産業集積ゾーン
			環境共生ゾーン

	京阪本線
	国土幹線道路
	幹線道路
	補助幹線道路
	(主) 主要地方道
	主要なバス路線
	市街地開発事業区域
	都市計画公園(近隣公園以上)・緑地
	その他主要な公園など
	供給処理施設
	ポンプ場
	緑道
	河川
	地域界

2

中部地域

中部地域は、本市の北西に位置し、地域の西端は淀川に接しています。面積は約 8.5 平方キロメートルとなっています。地域の東部は概ね平坦ですが、地域の西部は低地部との間が高低差のある地形となっています。



1 地域の状況

1) 地域の特徴・地域資源

交北は枚方台地の北辺に位置し、穂谷川左岸の田園部で、山田池の水利区域でした。小倉・御殿山・渚・磯島には奈良時代に百済寺がつくられ、平安時代には惟喬親王が別荘の渚院を構えました。明治に入って「小倉・御殿山」地区に陸軍禁野火薬庫がつくられました。昭和初期には火薬庫に隣接して陸軍造兵廠の枚方製造所がつくられ、戦後に民間の工場として払下げられました。

日本住宅公団（現在の独立行政法人都市再生機構）の中宮団地などの京阪沿線の開発により、穂谷川左岸及び枚方台地は密集度の高い住宅地となっています。

地域には、関西外国語大学が立地しています。歴史文化的資源として、特別史跡百済寺跡、禁野本町遺跡、禁野車塚古墳、伝渚院跡などがあります。自然資源として、河岸段丘崖※¹・社寺林など、市街地に残された緑地があります。



牧野駅



市立ひらかた病院



関西外国語大学



御殿山駅



百済寺跡

資源図



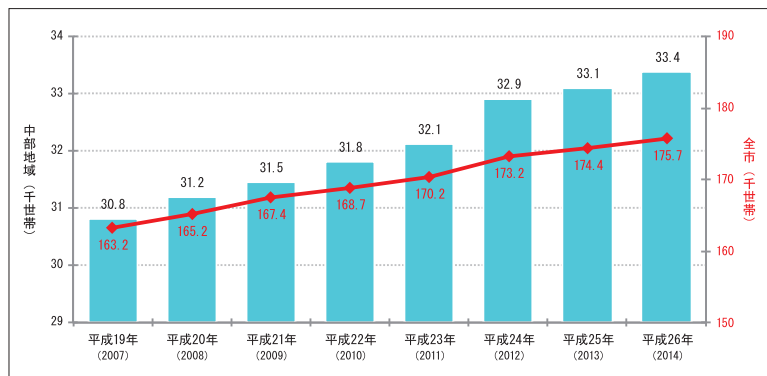
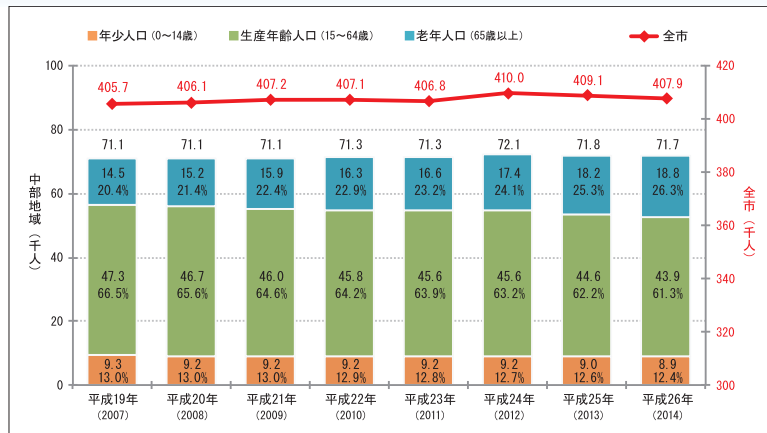
※ 1：段丘崖

上面と下面の平坦な部分の間に現れる傾斜が急な崖部分のことです。平坦な部分は段丘面といえます。

2) 人口・世帯数

中部地域の人口は約7万2千人となっています。7年前と比べ、市全体の人口は約0.5%増加しているのに対し、中部地域では約0.8%（約6百人）、増加しており、市全体と概ね同様の傾向で推移しています。また、平成26（2014）年の高齢者数は約1万9千人、高齢化率は、約26.3%となっており、7年前より約5.9ポイント増加しています。

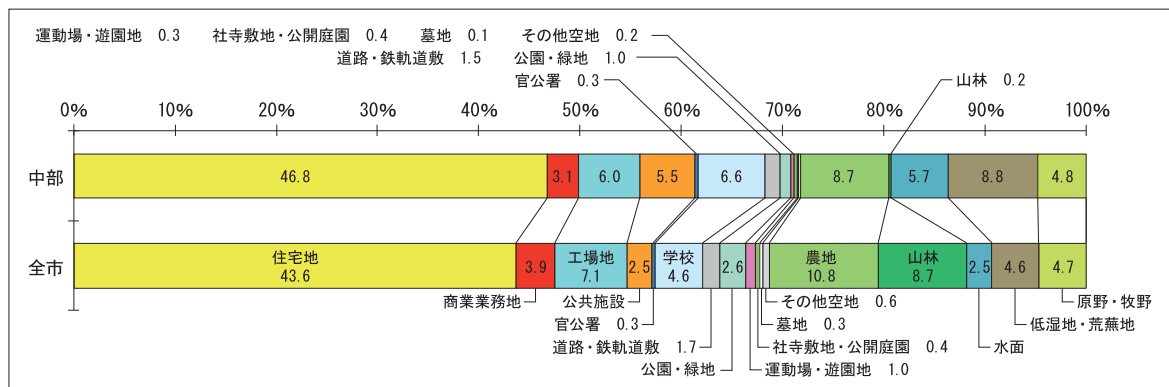
世帯数は、7年前と比べ、市全体で約7.7%増加しているのに対し、中部地域では約2万6千世帯、約8.4%の増加となっており、市全体よりやや高い増加率で推移しています。



出典：枚方市統計書（平成19年～平成26年）より集計

3) 土地利用

市内でも比較的早い時期において開発が進んだ地域で、地域南部には商業施設と住宅地が共存し、枚方市駅に近く利便性の高い居住環境が形成されています。地域の約47%を住宅地が占めており、全市の平均程度となっています。（府）杉田口禁野線沿道には、市立ひらかた病院や大学が立地し、淀川沿いには大阪府の広域下水処理場や渚市民体育館などの公共施設の占める割合が市内で最も高い地域です。地域の中央には大規模工場があり工業系の土地利用となっています。また、国道1号沿道は商業施設が建ち並び商業系の土地利用となっています。淀川沿いや地域の東部に市街化調整区域があり、まとまった農地が広がっています。



出典：都市計画基礎調査（平成22年度） 大阪府調査より集計

4) 都市基盤

交通

楠葉中宮線や枚方藤阪線の整備が進みつつあり、市内の地域間の移動が容易になりつつあります。

御殿山駅には駅前広場が整備されているものの、アクセス道路が未整備となっています。また、御殿山駅の周辺などでは、幹線道路から流入する通過交通が生活道路にまで入り込んでいる状況です。

公園、緑地

交北公園や歴史公園となる百済寺跡公園をはじめとした主要な公園（近隣公園以上）は、面積約14.1ha、5箇所が都市計画決定されており、面積的な整備はほぼ完了しています。

また、淀川河川公園が、緑地として都市計画に定められていますが、この地域内においては未整備の状況です。

都市施設整備状況図



5) 市街地

中部地域では、昭和14（1939）年の禁野火薬庫大爆発の後に、中宮復興地区において土地区画整理事業が行われ、住宅地などの整備が行われました。戦後は旧陸軍の枚方製造所跡地が活用され、現在も民間の工場として稼働しています。

昭和30年代後半には中宮団地が完成し、その後も開発が進み、住宅地が広がりました。平成16年頃からは北片鉾町地区において土地区画整理事業が行われ、防災公園の車塚公園などの整備が行われました。

2 地域の主要課題

❖ 牧野駅、御殿山駅、宮之阪駅周辺の拠点性の強化など

牧野駅周辺、御殿山駅、宮之阪駅周辺では地区拠点として、日常生活に必要な生活サービスに関する都市機能を充実させるとともに、鉄道駅周辺におけるバリアフリー化を促進するなど安全で快適な歩行空間の確保とともに、賑わいとゆとりのある空間の形成が求められています。

❖ 良好な居住環境の整備

地域内では幅員が狭い道路や老朽木造家屋などが密集する地区がみられ、居住環境の改善が求められています。

また、地域内の幹線道路の整備が十分ではなく住宅地への通過交通の流入が発生しており、道路整備の促進が求められています。

❖ 歩行者の安全を確保する道路整備など

鉄道駅周辺や新たに整備された市立ひらかた病院、大学などを利用する人々が安全で安心して通行できる道路空間の形成などが求められています。

また、鉄道駅周辺におけるバリアフリー化を促進するなど安全で快適な歩行空間の確保とともに、賑わいとゆとりのある空間の形成が求められています。

❖ 浸水被害の軽減

台風や局地的集中豪雨などの降雨時においては、浸水する地域が見られるなど浸水被害を軽減させる取り組みが求められています。

❖ 淀川の自然環境などの保全、活用

淀川の自然環境や淀川沿いや地域の東部にある都市農地などの保全や活用を促進していくことが求められています。

3 地域の都市づくりの方針

便利で快適に暮らせる計画的な都市づくり

- 枚方市駅周辺における都市機能を集積する拠点の形成

枚方市駅周辺においては、宮之阪駅周辺と一体となって商業などの多様な都市機能の集積を図ります。

- 牧野駅周辺、御殿山駅周辺、宮之阪駅周辺の生活サービスなどの都市機能を集積する拠点の形成

牧野駅、御殿山駅及び宮之阪駅周辺において、周辺エリアの中心となる生活サービスなどの都市機能の集積を図ります。また、児童発達支援センターの整備により、障害のある児童の健やかな成長支援の促進を図ります。

- 鉄道駅周辺における多様な都市機能と調和した良好な居住環境の形成と都市居住の促進

鉄道駅周辺においては、多様な都市機能と調和した利便性が高く良好な居住環境を形成し、都市居住の促進を図ります。

- 工業集積ゾーンや国道1号沿道地域における産業集積

幹線道路の交通利便を生かし、工業集積ゾーンや国道1号沿道地域における産業集積を図ります。

都市基盤や公共交通ネットワークが充実した都市づくり

- 淀川渡河橋（牧野高槻線）の整備促進

淀川対岸の北摂地域などを含めた広域都市圏の交流促進を図るため、淀川渡河橋（牧野高槻線）の整備を促進します。

- 枚方藤阪線の整備促進

枚方市地域防災計画において地域防災センターとして位置づけられている「輝きプラザきらら」や枚方市役所、山田池公園など、災害時の防災の拠点間のネットワーク化を図り、安全な歩行空間の確保などのため、枚方藤阪線の整備を促進します。

- 御殿山小倉線の整備

生活道路への通過交通の流入の抑制及び安全な歩行空間の確保などを図るとともに、御殿山駅や「輝きプラザきらら」へのアクセス性を高める御殿山小倉線を整備します。

安全安心の都市づくり

- 浸水被害の軽減に向けたポンプ場の整備

浸水被害の軽減に向けて、溝谷川ポンプ場の排水機能の向上を図ります。

- 鉄道駅周辺におけるバリアフリー化の促進

牧野駅、御殿山駅及び宮之阪駅周辺の道路や主要な公共施設などにおいては、安全かつ円滑な移動などができるよう、枚方市バリアフリー基本構想の取り組みをはじめとした、バリアフリー化を促進します。

水や緑の豊かな地域資源を生かし、質が高く潤いのある都市づくり

- 淀川の自然環境や景観の保全、活用

淀川の四季や魅力を感じることができるよう、淀川の自然環境や景観を保全しつつ、身近に憩い潤う場の確保を図ります。

- 西牧野小学校周辺の居住環境の保全

西牧野小学校周辺などの市街化調整区域において、既に形成されている住宅地については、居住環境の保全を図ります。

- 歴史文化的資源の保全、活用

百済寺跡や牧野車塚古墳などの歴史文化的資源を保全し、歴史を身近に感じることができるよう活用を図ります。

- 都市農地の保全、活用

都市農地は、良好な景観の形成や自然とのふれあいの場、防災機能などの多様な機能を有しており、保全や活用を図ります。

地域別方針図



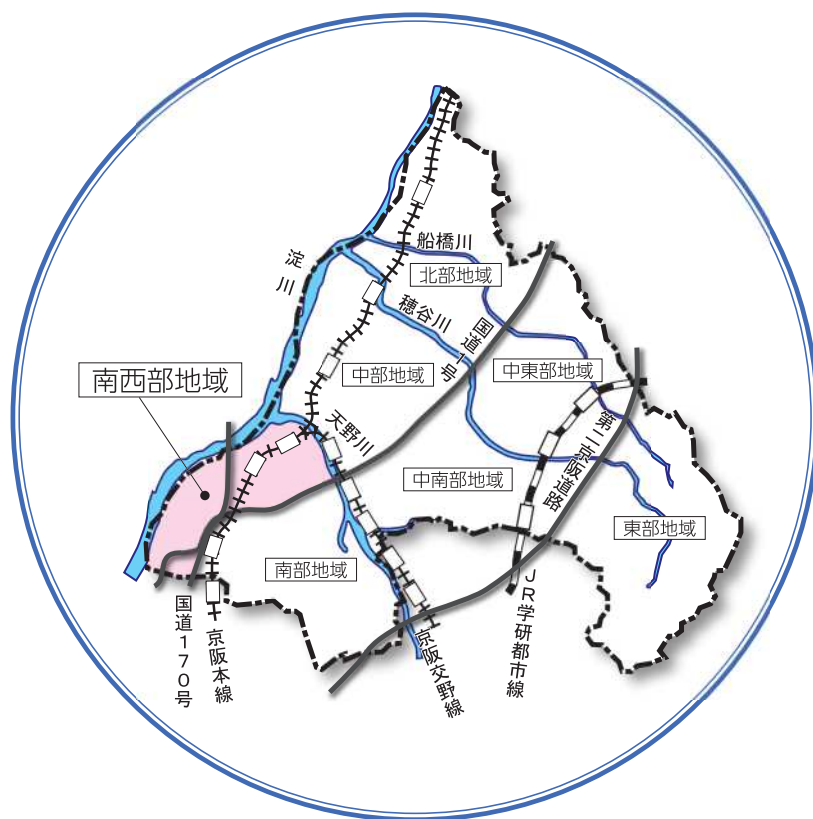
凡例

都市的	都市拠点系	広域都市機能集積ゾーン
		都市機能集積ゾーン
		生活利便ゾーン
都市的	居住系	居住ゾーン
		環境共生居住ゾーン
	産業系	工業集積ゾーン
		住工協調ゾーン
環境保全・自然系		沿道産業集積ゾーン
		環境共生ゾーン

+++++	京阪本線、京阪交野線
←→	幹線道路
←→	補助幹線道路
(主)	主要地方道
(府)	府道
—	主要なバス路線
	都市計画公園(近隣公園)・緑地
	供給処理施設
P	ポンプ場
川	河川
□	地域界

3 南西部地域

南西部地域は、本市の南西に位置し、地域の南部は寝屋川市に、西端は淀川に接しています。面積は約4.8平方キロメートルで、枚方公園駅の後背地には枚方丘陵がせまっています。



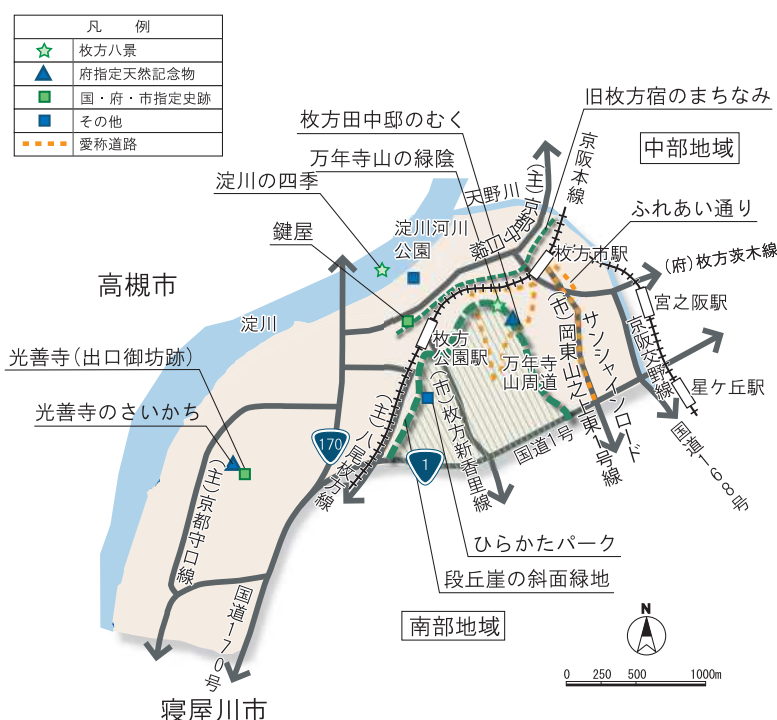
1 地域の状況

1) 地域の特徴・地域資源

枚方地区はかつての三矢、岡、岡新町、泥町と枚方、伊加賀、田宮の7つの村と禁野村の一部からなり、西北側は淀川に面し、東側は天野川そして南側は枚方丘陵の段丘崖となっています。江戸時代には枚方宿が設置され、淀川舟運でもにぎわいました。三矢には明治に入って郡役所が置かれ、その後は枚方町役場も置かれるなど行政の中心でしたが、昭和前期から徐々に行政の中心は大垣内方面に移動しました。本地域には国道1号と国道170号が通過しており、大正期に国道1号（現国道170号）沿道に蝶矢シャツが進出したことや、昭和初期の枚方大橋の架橋により、工業・流通業務施設の立地が盛んとなりました。その後、昭和40年以降は開発が進み、住宅地がつくられました。

地域には、関西医科大学付属病院、ひらかたパークなどが立地しています。歴史文化的資源として、鍵屋、光善寺（出口御坊跡）、旧枚方宿のまちなみなどがあります。自然資源として、丘陵部の万年寺山の緑陰や、枚方田中邸のむくの木などの特徴ある緑も残っています。

資源図



枚方市駅周辺



枚方宿



淀川河川公園



枚方市駅

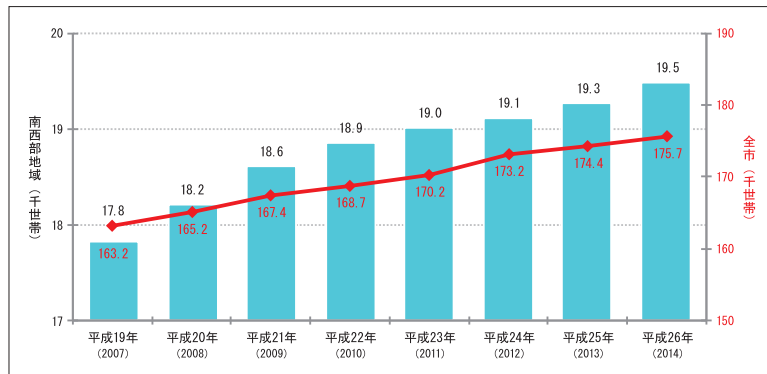
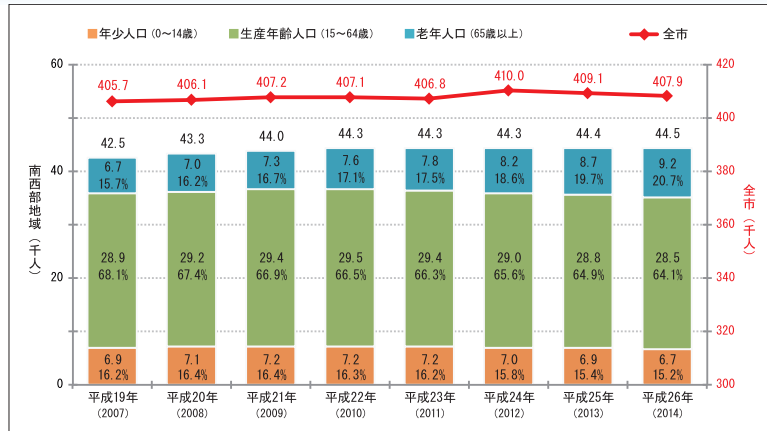


万年寺山

2) 人口・世帯数

南西部地域の人口は約4万5千人となっています。市全体の人口が7年前と比べ、約0.5%増加しているのに対し、南西部地域では約4.7%（約2千人）の増加と7地域で最も増加しています。また、平成26（2014）年の高齢者数は約9千人、高齢化率は約20.7%となっており、7年前より約5.0ポイント増加しています。

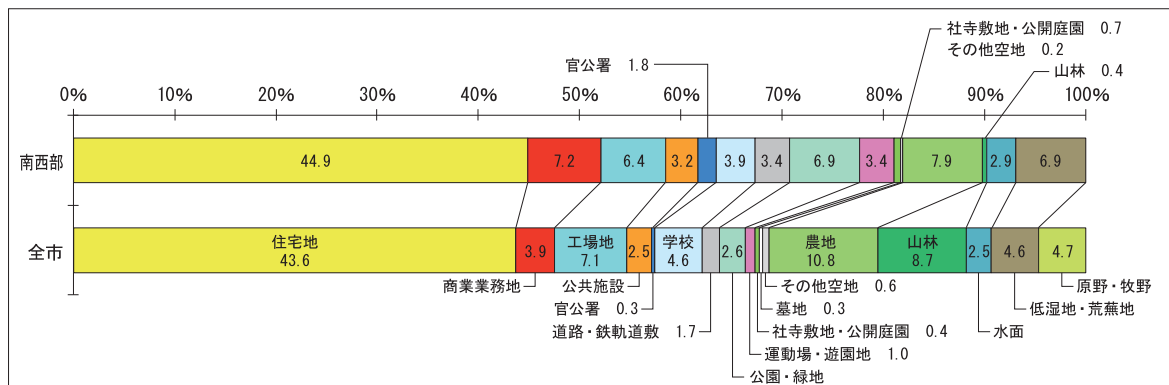
世帯数は7年前と比べ、市全体で約7.7%増加しているのに対し、南西部地域では約1万7千世帯、約9.6%の増加となっており、市全体より高い増加率で推移しています。



出典：枚方市統計書（平成19年～平成26年）より集計

3) 土地利用

地域北部には枚方市の玄関口である枚方市駅があり、その乗降車人員数は1日で約9万人を超えています（平成26（2014）年現在）。地域の約45%を住宅地が占めており、全市平均程度となっていますが、商業業務地は約7%と全市平均より高くなっています。枚方市の中心地である枚方市駅周辺は官公庁団地や大学病院などの公共・公益施設や商業施設が集まり、地域南部の国道170号沿道は物流センターなどの工業系の土地利用となっています。多くの人が訪れる淀川河川公園が整備されており、地域の公園・緑地率は他の地域と比べて比較的高いものとなっています。淀川沿いや地域の南部に市街化調整区域があり、農地などが広がっています。



出典：都市計画基礎調査（平成22年度）大阪府調査より集計

4) 都市基盤

交通

地域内を南北方向に、京都守口線などの幹線道路が通過しています。枚方市駅から枚方公園駅にかけては、安全、安心で快適な歩行エリアを確保するため、交通体系の見直しを行い、交通の円滑化を図るとともに、生活道路への通過交通の流入を抑制しています。

また、京阪本線の枚方市駅から寝屋川市駅までの区間で連続立体交差事業が進められています。

公園、緑地

主要な公園（近隣公園以上）は、広域公園の枚方公園が面積約 15.9ha として都市計画決定されています。また、地域北部には、淀川河川公園が緑地として都市計画に定められており、河川空間を生かした憩いの場が形成されています。

都市施設整備状況図



5) 市街地

南西部地域は、昭和初期より、工業・流通業務施設の立地が盛んとなり、昭和 40 年代以降住宅開発が進みました。昭和 44（1969）年から行われた土地区画整理事業において官公庁団地の整備などが行われました。

枚方市駅周辺においては、市街地再開発事業により、昭和 47（1972）年から枚方市駅南口の駅前広場や商業施設などの整備が、昭和 58（1983）年からは枚方岡本町地区において複合施設などの整備が行われました。近年では、枚方市駅周辺地区において市街地再開発事業が行われており、交通環境の改善及び多様な都市機能の導入等、広域中心拠点の形成に向けた取り組みが進められています。

伊加賀西地区においては、平成5（1993）年から土地区画整理事業が行われ住宅地などが整備されました。

2 地域の主要課題

❖ 枚方市駅周辺の広域性の強化

枚方市駅周辺は、枚方市の中心市街地にふさわしい広域性のある交流拠点として、さらなる都市機能の高度化や賑わいの創出が求められています。

❖ 枚方市駅周辺の交通環境の改善

枚方市駅周辺では、バスなどの駅へのアクセス交通と駅を通過する交通で朝夕は混雑しており通過交通の抑制、駅前広場や道路の整備・改良等による交通環境の改善が求められています。

また、鉄道駅周辺では、人々の回遊性の向上をめざした歩行者動線の整備など、安全で快適な空間の確保が求められています。

❖ 鉄道に起因する交通問題の解消や地域一体のまちづくり

京阪本線では、踏切が交通渋滞や踏切事故の大きな要因となっています。また、鉄道により分断されている市街地の一体化による地域の活性化が課題となっています。このため、安全で安心な交通環境の確保や市街地の健全な発展と都市機能の充実を図ることが求められています。

❖ 良好な都市環境の保全、形成

道路が狭あいでは災害時に緊急車両が通りにくい地区や家屋が密集しているエリア、住宅と工場が混在しているエリアなどにおいて、工場の操業環境と居住環境を保全、形成していくことが求められています。

❖ 枚方公園駅周辺の地域資源の活用

枚方公園駅周辺は、淀川河川公園や歴史街道、「ひらかたパーク」など広域観光拠点を形成するために必要な地域資源が豊富なエリアです。

これらの地域資源を活用し、それぞれのつながりを連続的なものとなる歩行者動線の整備など、回遊性を創出することにより賑わいの相乗効果の創出を図ることが求められています。

❖ 自然環境や歴史文化的資源の保全、活用

本地域は、淀川をはじめとする自然環境や歴史文化的な資源などに恵まれています。こうした資源は、市民や訪れる人がその豊かさをより実感できるように守り、生かしていくことが求められています。

3 地域の都市づくりの方針

便利で快適に暮らせる計画的な都市づくり

- **枚方市駅周辺における広域都市圏を対象とした都市機能を集積する広域中心拠点の形成**
枚方市駅周辺において、広域都市圏の中心的な機能を担う商業、業務、医療などの多様な都市機能の集積を図ります。
- **枚方市駅周辺再整備の実現に向けた取り組みの推進**
枚方市駅周辺においては、駅前広場の交通混雑や周辺施設の老朽化などの様々な問題に対応し、社会環境の変化や市民ニーズの多様化に対応していくため、地域全体を総合的にとらえつつ、適切に土地の高度利用が図られるよう都市計画制度を活用するなど、都市の活性化に向けた再整備を推進します。
- **総合文化施設の整備促進による文化芸術拠点の形成**
広域的な集客・交流機能を持つ総合文化施設の整備を進め、文化芸術の拠点を形成します。
- **枚方公園駅周辺における、自然、歴史、アミューズメント施設などを活用した人が集まる広域観光交流拠点の形成**
枚方公園駅周辺において、淀川河川公園などの自然環境や、歴史街道、ひらかたパークなどを活用した広域観光交流拠点を形成します。
- **鉄道駅周辺における多様な都市機能と調和した良好な居住環境の形成と都市居住の集積**
鉄道駅周辺においては、多様な都市機能と調和した利便性が高く良好な居住環境を形成し、都市居住の集積を図ります。
- **国道1号沿道地域における産業の集積**
幹線道路の交通利便を生かし、国道1号沿道地域における産業集積を図ります。
- **居住環境の保全と調和が図られた複合的な産業の集積**
住工協調ゾーンでは、居住環境の保全と調和を図りながら、主として工業系や商業系の複合的な産業集積を図ります。

都市基盤や公共交通ネットワークが充実した都市づくり

- **枚方市駅前の交通機能の強化**
枚方市駅前における道路や駅前広場の整備などによる交通結節点機能の強化や枚方市駅前を通過する車両の流入を抑制するとともに、賑わいとゆとりのある駅空間の形成を図ります。
- **京阪本線連続立体交差事業の整備促進**
京阪本線の寝屋川市駅から枚方市駅間の鉄道を高架化し、交通渋滞や地域分断の解消などを図る連続立体交差事業と関連する道路などの整備の促進を図ります。
- **枚方藤阪線の整備促進**
枚方市地域防災計画において地域防災センターとして位置づけられている「輝きプラザきらら」や枚方市役所、山田池公園など、災害時の防災の拠点間のネットワーク化を図り、安全な歩行空間の確保などのため、枚方藤阪線の整備を促進します。

● 淀川衛生工場（汚物処理施設）の改造

淀川衛生工場（汚物処理施設）を将来の搬入量に見合った効率的・効果的な処理方式である希釈放流方式の下水前処理施設へ改造し、公共下水道へし尿などの放流を行います。

安全安心の都市づくり

● 浸水被害の軽減に向けたポンプ場整備と雨水調整池※¹ 整備

台風や局地的集中豪雨などの降雨時における浸水被害の軽減に向けて、新安居川ポンプ場の排水機能の向上や蹉跎排水区において雨水調整池や雨水貯留管などを整備します。

● 雨水流出抑制対策の促進

寝屋川流域※² 内で行う一定規模の宅地化や舗装など、雨水の流出量を増加させるおそれのある行為や公共・公益施設における雨水流出抑制対策を促進します。

● 鉄道駅周辺におけるバリアフリー化の促進

枚方市駅及び枚方公園駅周辺の道路や主要な公共施設などにおいては、安全かつ円滑な移動などができるよう、枚方市バリアフリー基本構想の取り組みをはじめとした、バリアフリー化を促進します。

水や緑の豊かな地域資源を生かし、質が高く潤いのある都市づくり

● 淀川の魅力の向上

淀川の四季や魅力を感じることができるよう、舟運の再生を推進します。

また、淀川により親しめるよう、淀川河川公園の整備を促進します。

● 地域資源や観光資源を生かしたにぎわいの創出

京街道の宿場町である枚方宿や淀川河川公園、ひらかたパークなどの地域資源や観光資源を生かし、にぎわいの創出を図ります。

● 住宅地と工場などの混在抑制

住宅地と工場などが混在している地区では、地域の実情に応じ、住民と企業が協調して、地区計画制度などの活用を検討するなど、共存できる環境づくりを図ります。

● 歴史文化的資源の保全、活用

旧枚方宿、歴史街道や光善寺などの歴史文化的資源を保全し、歴史を身近に感じることができるよう活用を図ります。

● 都市農地の保全、活用

都市農地は良好な景観の形成や自然とのふれあいの場、防災機能などの多様な機能を有しており、保全や活用を図ります。

※ 1：雨水調整池

市街地から表面流出した雨水を一時的に貯留し、その際に雨水と共に流出する汚濁物質を堆積させる池のことです。

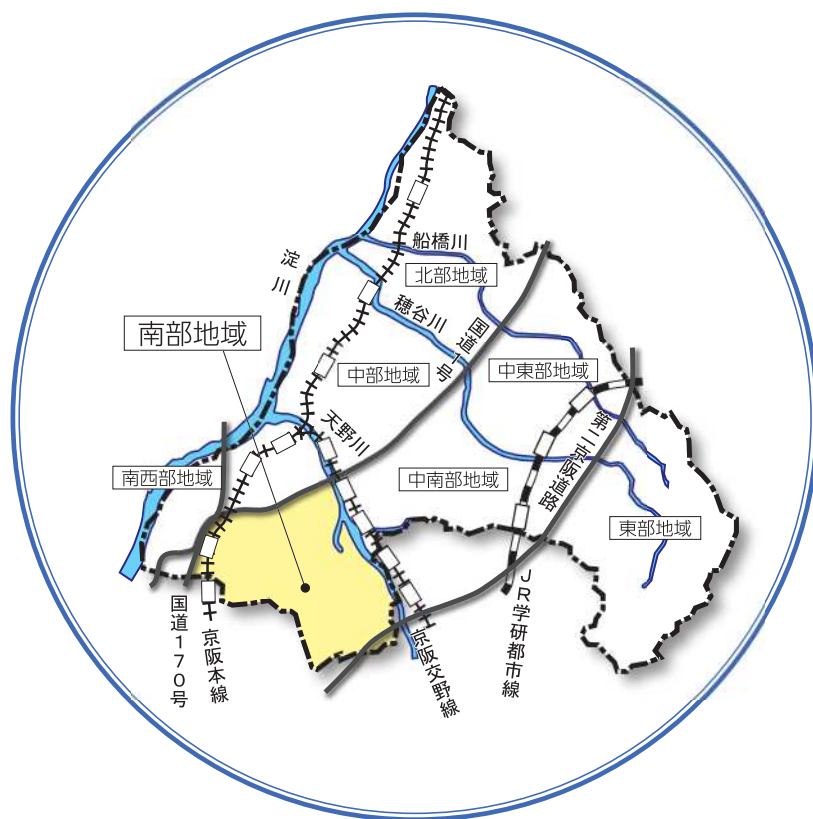
※ 2：寝屋川流域

大阪府中部に位置し、大阪市をはじめとする流域関係 11 市（大阪市＜東部＞、枚方市、寝屋川市、交野市、守口市、門真市、四條畷市、大東市、東大阪市、八尾市、柏原市）、約 270kmに広がっている寝屋川水系の河川流域のことです。寝屋川流域の大部分は「内水域」となっており、急速な都市化の進展により保水・遊水機能が低下しているため、国・府・流域関係 11 市及び民間が協力しながら、河川と下水の一体的、総合的な治水対策が進められています。

4 南部地域

南部地域は、本市の南に位置し、地域の南端は寝屋川市、東部は交野市に接しています。

面積は約9.0平方キロメートルで、地域の大半が丘陵部(枚方丘陵)であるため、起伏のある地形となっています。



1 地域の状況

1) 地域の特徴・地域資源

本地域には蹉跎神社があり、その後背の丘陵は蹉跎山と呼ばれてきました。これらも住宅開発が進み、中央部の谷あいには農地や竹林を残す程度となっています。

戦前、香里丘陵に陸軍火薬製造所がつくられ、戦後はその跡地に日本住宅公団（現在の独立行政法人都市再生機構）による香里団地が建設されたことにより、この地域は大きく様変わりしました。民間住宅地開発が進み、集落地をわずかに残しながら、新しいまちが香里団地周辺につくられました。

歴史文化的資源として、蹉跎神社、釈尊寺、春日神社（茄子作）などがあります。自然資源として、天野川沿いには農地が広がっています。開発がおよばないところに雑木林が残っていますが、自然の樹林や田畑が少ない地域です。



香里ヶ丘地区



けやき通り



第二京阪道路

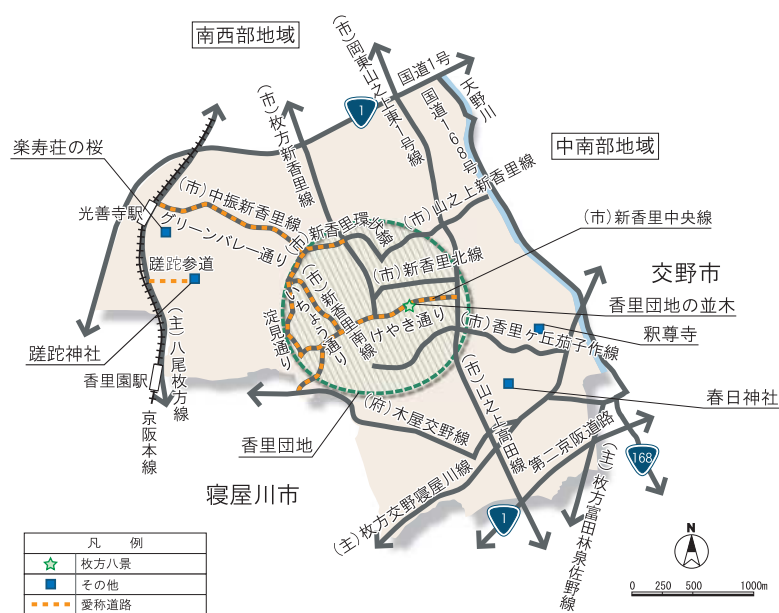


楽寿荘



天野川沿いの農地

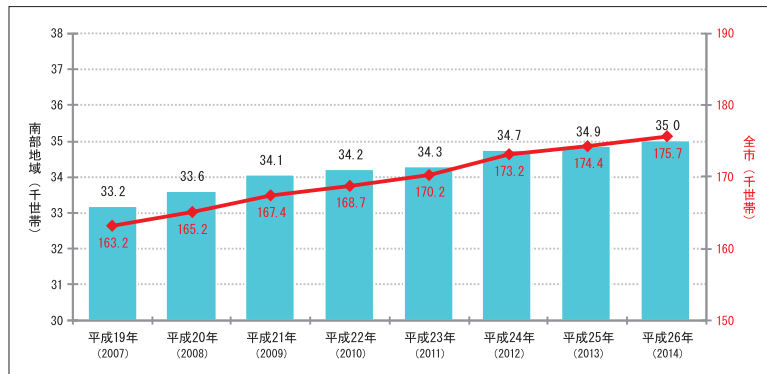
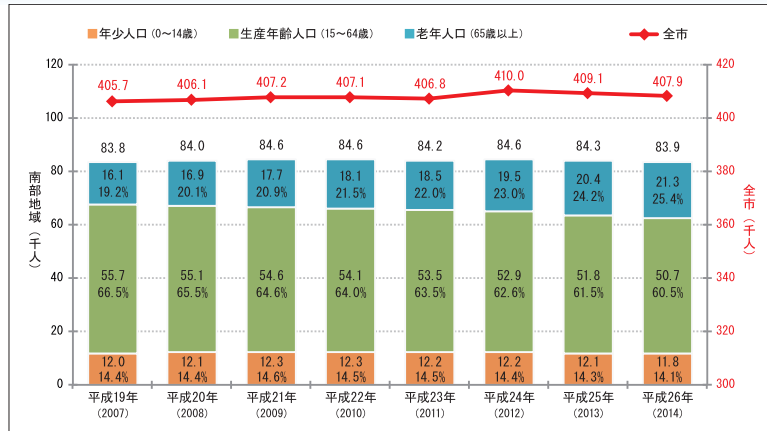
資源図



2) 人口・世帯数

南部地域の人口は約8万4千人となっています。市全体の人口が7年前と比べ約0.5%増加しているのに対し、南部地域では約0.1%（約百人）増加しています。また、平成26（2014）年の高齢者数は約2万1千人、高齢化率は約25.4%となっており、7年前より約6.2ポイント増加しています。

世帯数は7年前と比べ、市全体で約7.7%増加しているのに対し、南部地域では約1万8千世帯、約5.4%の増加となっており、市全体より低い増加率で推移しています。

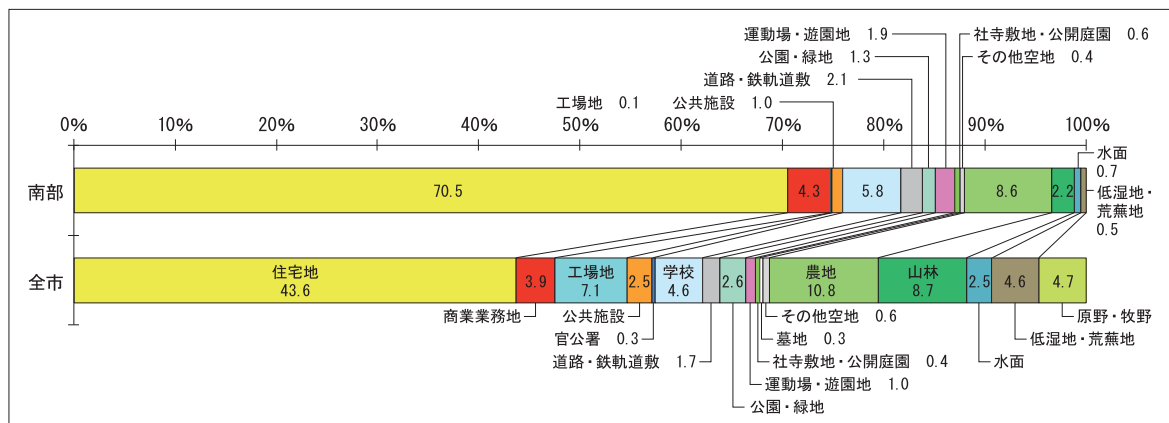


出典：枚方市統計書（平成19年～平成26年）より集計

3) 土地利用

全市平均を大きく上回る約71%を住宅地が占めるこの地域では、地域のほぼ全域が丘陵に位置しており、地域の中央に香里団地を中心とした住宅地が広がっています。丘陵地を生かして建ち並ぶ住宅地では建築協定などにより良好な居住環境が保たれており、農地や山林などが占める割合は少ないものの、緑を多く感じることができる地域となっています。

市街化区域は地区全体に対して約92%となっており、その大部分が住宅系の土地利用となっています。地域の南部に市街化調整区域があり、まとまった農地が広がっています。



4) 都市基盤

交通

地域内の都市計画道路の整備率は比較的高い状況にありますが、枚方大和高田線や中振交野線などの道路の一部が未整備となっています。

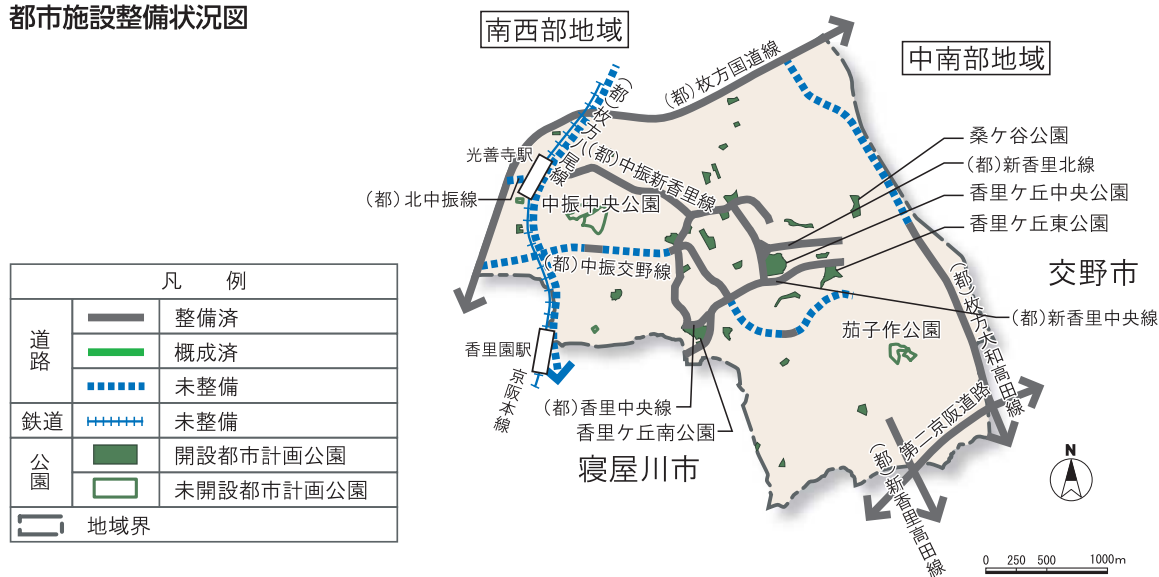
主要な交通施設については、香里園駅前に駅前広場が設けられていますが、光善寺駅の駅前広場は未整備となっています。また、京阪本線の枚方市駅から寝屋川市駅までの区間で連続立体交差事業が進められています。

香里団地については、便数が多く、多方面へ向かう複数のバス路線が運行している状況となっています。

公園

香里ヶ丘中央公園をはじめとした主要な公園（近隣公園以上）は、面積約 12.7ha、6 箇所が都市計画決定されています。計画面積に対する開設率は約 54%となっており、地域の基幹的な公園となる中振中央公園などが未整備となっている状況です。

都市施設整備状況図



5) 市街地

南部地域では、昭和 32 (1957) 年より香里地区において、日本住宅公団（現在の独立行政法人都市再生機構）により土地区画整理事業が行われ、大規模な住宅地などの整備が行われました。その後も土地区画整理事業や開発により住宅地などの整備が進みました。

平成 18 (2006) 年より香里園駅東地区において市街地再開発事業が行われ、駅前広場や商業、住宅、医療施設などが整備されました。

近年では、茄子作南地区及び星田北地区において土地区画整理事業が行われており、第二京阪道路の交通便利を生き、産業系の土地利用を目的とした市街地整備が進められています。また、光善寺駅西地区において、連続立体交差事業にあわせた市街地再開発事業が行われており、光善寺駅前広場を含むアクセス道の整備と都市機能の集積等、地区拠点の形成が進められています。

2 地域の主要課題

❖ 光善寺駅周辺の拠点性の強化

光善寺駅周辺は、日常生活の拠点にふさわしい地区として、交通結節点機能、商業などの都市機能の拠点機能の強化が求められています。

❖ 鉄道に起因する交通問題の解消や地域一体のまちづくり

京阪本線では、踏切が交通渋滞や踏切事故の大きな要因となっています。また、鉄道により分断されている市街地の一体化による地域の活性化が課題となっています。このため、安全で安心な交通環境の確保や市街地の健全な発展と都市機能の充実を図ることが求められています。

❖ 香里団地の良好な都市環境づくりの促進

順次進められている建て替えなどの香里団地では、緑豊かな環境を継承しながらゆとりのある良好な居住環境の形成や都市機能の更新など、街全体のリニューアルが求められています。すべての世代に親しまれ、次世代に引き継いでいける良好な都市環境づくりを促進していくことが求められています。

❖ 幹線道路沿道のポテンシャルを生かしたまちづくり

広域幹線道路である第二京阪道路の交通便利を生かし、農地の保全と豊かな自然環境との調和に配慮しつつ産業集積を図るなど、広域幹線道路沿道のまちづくりを促進することが求められています。

❖ 自然環境の保全、活用

本地域には、天野川や枚方丘陵にみられる段丘崖の緑地などの豊富な自然資源があり、これらを市民の憩いや安らぎの空間として有効に活用していくことが求められています。

3 地域の都市づくりの方針

便利で快適に暮らせる計画的な都市づくり

- **光善寺駅や香里園駅周辺、香里ヶ丘地区の生活サービスなどの都市機能を集積する拠点の形成**
光善寺駅や香里園駅周辺、香里ヶ丘地区においては、周辺エリアの中心となるサービス施設などの都市機能の集積を図ります。
- **多様な都市機能と調和した良好な居住環境の形成と都市居住の促進**
鉄道駅などの周辺においては、多様な都市機能と調和した利便性が高く良好な居住環境を形成し、都市居住の促進を図ります。
- **光善寺駅前広場の整備による利便性の向上などの計画的な土地の高度利用の促進**
京阪本線連続立体交差事業にあわせた市街地再開発事業により、光善寺駅前広場などの整備による交通結節点機能の強化や賑わいとゆとりのある駅空間の形成を図るとともに、計画的な土地の高度利用を促進します。
- **茄子作南地区等における土地区画整理事業による広域交通網を利用した地域産業の活性化**
茄子作南地区及び星田北地区並びに茄子作高田地区周辺では、広域幹線道路の第二京阪道路による交通便利を生かし、土地区画整理事業により地域産業の活性化を図り、緑豊かで産業立地にふさわしい市街地を創出します。
- **香里団地の再生**
老朽化した建築物の建替えなどのまち全体のリニューアルが進みつつある香里団地の再生を促進します。また、これに併せて子育て支援や教育文化などに関する都市機能の充実を図ります。
- **国道1号、第二京阪道路沿道地域における産業の集積**
幹線道路の交通便利を生かし、国道1号や第二京阪道路沿道地域における産業集積を図ります。

都市基盤や公共交通ネットワークが充実した都市づくり

- **京阪本線連続立体交差事業の整備促進**
京阪本線の寝屋川市駅から枚方市駅間の鉄道を高架化し、交通渋滞や地域分断の解消などを図る連続立体交差事業と関連する道路などの整備の促進を図ります。
- **中振交野線などの整備**
枚方八尾線や中振交野線などの整備による道路ネットワークの強化と安全な歩行空間の確保などを図ります。

安全安心の都市づくり

● 浸水被害の軽減に向けた対策

台風や局地的集中豪雨などの降雨時における浸水被害の軽減に向けて、蹠跢排水区における雨水調整池や雨水貯留管などを整備します。

● 雨水流出抑制対策の促進

寝屋川流域内で行う一定規模の宅地化や舗装など、雨水の流出量を増加させるおそれのある行為や公共・公益施設における雨水流出抑制対策を促進します。

● 鉄道駅周辺などにおけるバリアフリー化の促進

光善寺駅周辺などの道路や主要な公共施設などのバリアフリー化を促進します。

水や緑の豊かな地域資源を生かし、質が高く潤いのある都市づくり

● 第二京阪道路沿道地域のまちづくり

第二京阪道路沿道地域においては、都市計画制度などの活用により、生駒山系の豊かな緑や都市農地などの周辺環境と調和のとれたまちなみを創出します。

● 中振中央公園の整備

地域の中心となる憩いの場として、中振中央公園の整備を推進します。

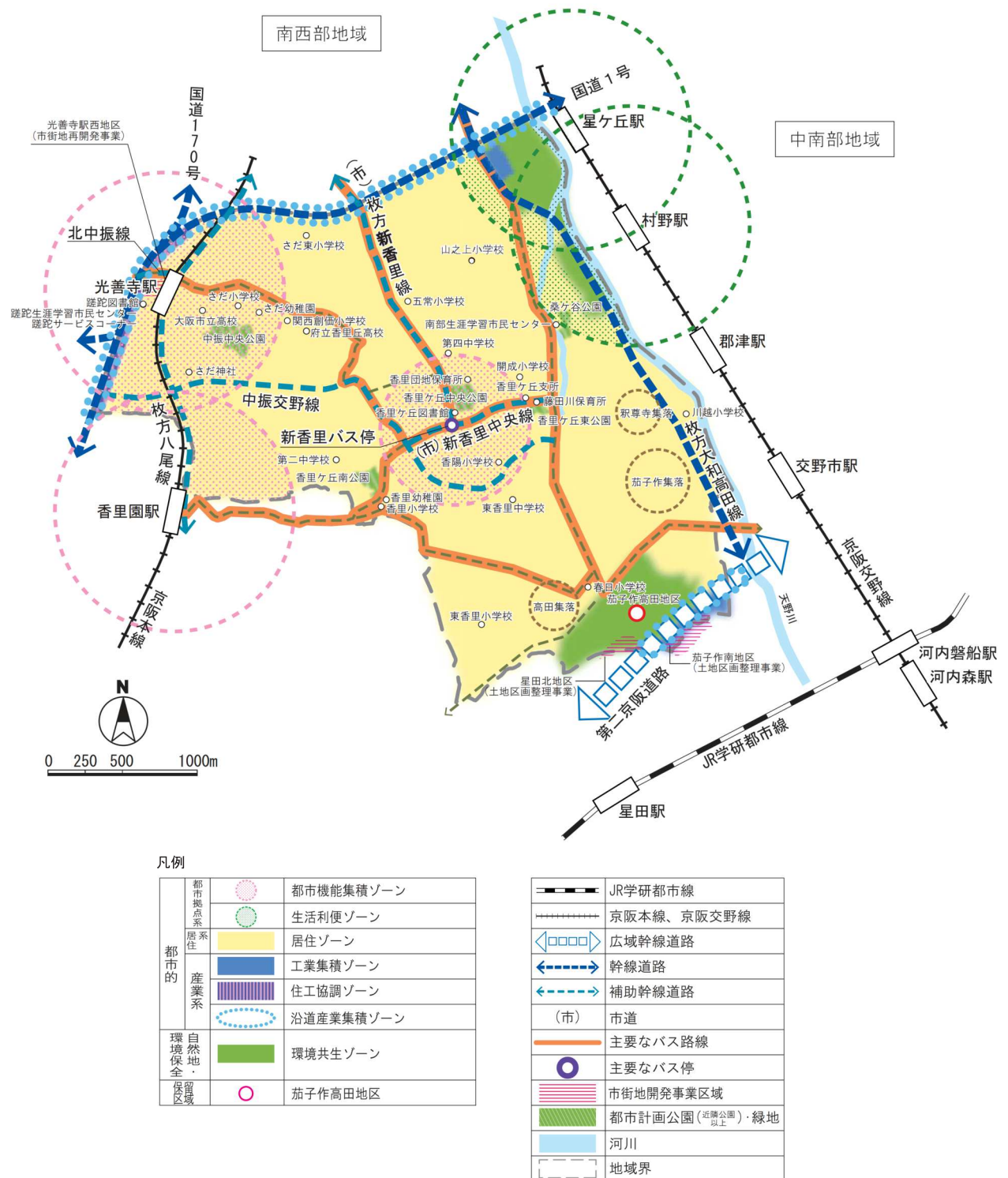
● 歴史文化的資源の保全、活用

蹠跢神社、春日神社などの歴史文化的資源を保全し、歴史を身近に感じることができるよう活用を図ります。

● 都市農地の保全、活用

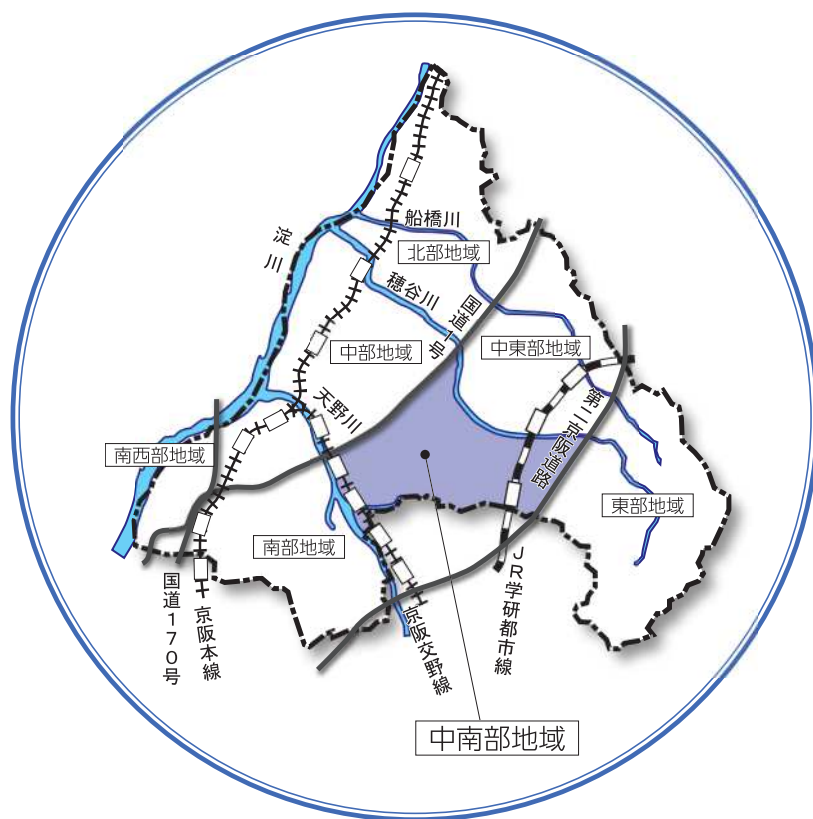
都市農地は良好な景観の形成や自然とのふれあいの場、防災機能などの多様な機能を有しており、保全や活用を図ります。

地域別方針図



5 中南部地域

中南部地域は、本市の南に位置し、地域の南部が交野市に接しています。面積は約 8.7 平方キロメートルで、天野川と穂谷川の2つの天井川に囲まれた地域で天野川沿いは河岸段丘となり、他は台地となっています。



1 地域の状況

1) 地域の特徴・地域資源

村野・桜丘は天野川とその支川の北川に沿う台地上に集落がつくられていた農村部で、昭和初期に現在の京阪交野線が敷かれ、その後新しい住宅地として星ヶ丘、桜丘が形成されました。出屋敷は東高野街道沿いに形成された集落です。津田は、山根街道が通っていました。昭和40年代になり、国道1号や国道307号などが開通し、その後に、枚方東部企業団地、枚方工業団地が形成され、農業と工業が共存するまちとなったところに住宅開発の波が押し寄せ、現在に至っています。

本地域には、枚方東部企業団地、枚方工業団地が立地しています。歴史文化的資源として、村野村高札場、春日神社（津田）のほか出屋敷集落、春日集落などがあります。自然資源として、ため池が多く、穂谷川に沿って緑が残っています。



津田駅



枚方東部企業団地

資源図



国道307号沿道



枚方工業団地

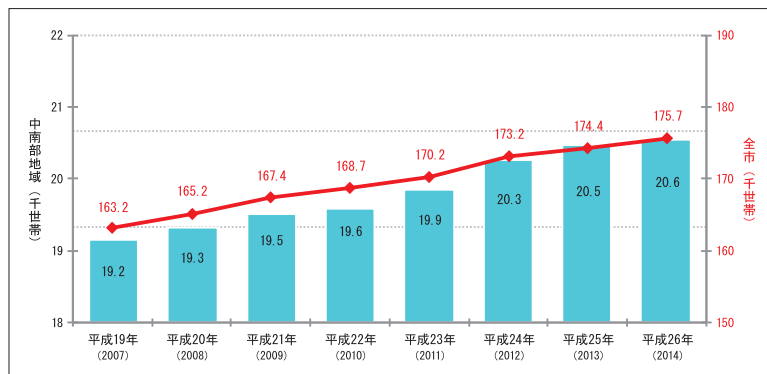
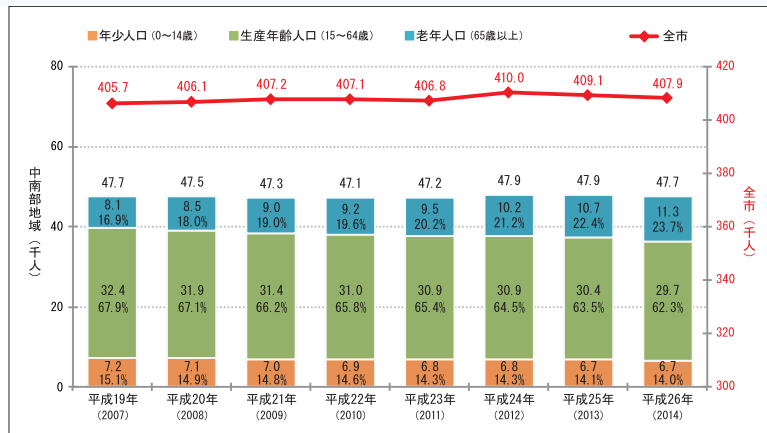


穂谷川

2) 人口・世帯数

中南部地域の人口は約4万8千人となっています。7年前と比べ、市全体の人口が約0.5%増加しているのに対し、中南部地域では同水準となっています。また、平成26(2014)年の高齢者数は約1万千人、高齢化率は約23.7%、7年前より約6.8ポイント増加しています。

世帯数は7年前と比べ、市全体で約7.7%増加しているのに対し、中南部地域では約千世帯、約7.3%の増加となっており、市全体と概ね同様の増加率で推移しています。

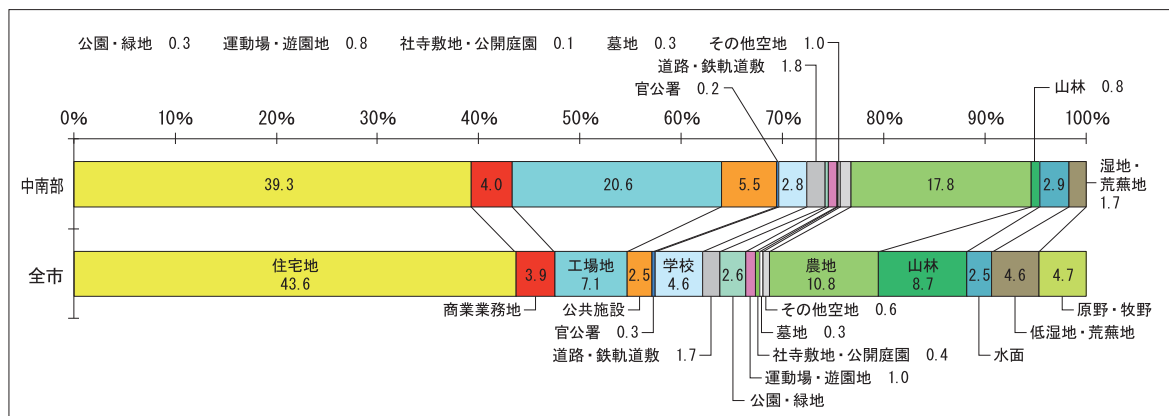


出典：枚方市統計書（平成19年～平成26年）より集計

3) 土地利用

東西に走る国道307号沿道には枚方東部企業団地や大規模の工場施設が立地するなど、地域の約21%を工場地が占めており、全市平均よりかなり高くなっています。また、京阪交野線やJR学研都市線の周辺一帯は住宅系の土地利用がなされており、地域に残る屋敷集落や春日集落などの古いまちなみは歴史を感じさせるたたずまいとなっています。

地域の北部に位置する穂谷川の沿川には市街化調整区域があり、まとまった農地が広がっています。



出典：都市計画基礎調査（平成22年度）大阪府調査より集計

4) 都市基盤

交通

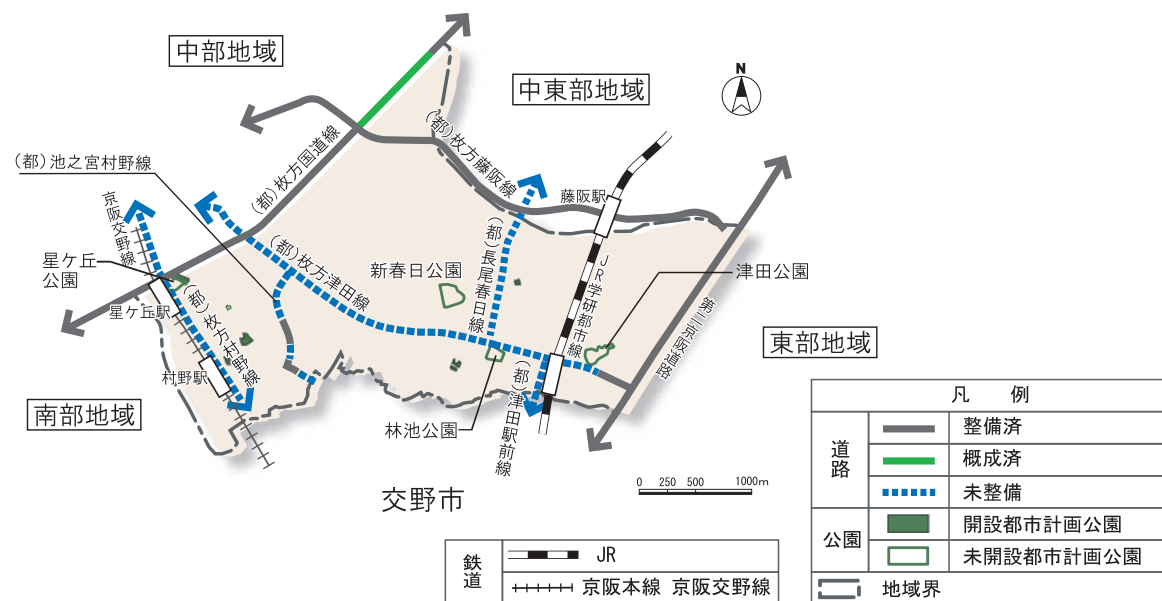
枚方藤阪線の整備により、国道 307 号の交通負担が軽減され一定の交通渋滞の緩和が図られましたが、第二京阪道路との交差点周辺などでは未だ交通渋滞が見受けられます。府道交野久御山線では歩道設置や交差点改良による道路環境の改善が図られています。

津田駅では駅前広場が設けられていますが、星ヶ丘駅、村野駅においては未整備の状況となっています。

公園

星ヶ丘公園や津田公園をはじめとした主要な公園（近隣公園以上）は、面積約 9.8ha、4 箇所が都市計画に定められています。現在、一部で整備が進められつつありますが、ほぼ未整備の状況となっています。

都市施設整備状況図



5) 市街地

中南部では、昭和 36（1961）年より京阪村野駅前地区において土地区画整理事業が行われ、その後も土地区画整理事業や開発により、鉄道駅の周辺においては住宅地、国道 1 号、307 号沿道においては商業や工業の立地が進みました。

2 地域の主要課題

❖ 津田駅、星ヶ丘駅、村野駅周辺の拠点性の強化

鉄道駅周辺では地区拠点として日常生活の利便性が高い拠点を形成するとともに、津田駅周辺では周辺のエリアの居住者の生活サービスを担うなど東部地域につながる拠点として、都市機能や交通機能の確保が求められています。

❖ 幹線道路の新たな道路渋滞への対応

国道 307 号と第二京阪道路との交差点周辺などでは交通渋滞が見受けられ、道路改良等の取り組みの促進が求められています。

❖ 操業環境の向上及び居住環境との協調

工業団地などの生産基盤の整備による産業集積を図るとともに、工業団地に隣接し、住工が混在している地区では、操業環境と居住環境の双方の機能が損なわれないように協調することが求められています。

❖ 集落景観など歴史文化的資源の保全

伝統的な佇まいを残す集落の景観や歴史文化的資源があり、そうした歴史文化的資源が住宅の開発などにより失われないように保全していくことが求められています。

❖ 自然資源を生かした市民の憩いの空間づくり

市民が自然と触れ合い、憩いや安らぎを感じることが出来るまちとするため、穂谷川などの自然資源を生かした市民の憩いの空間づくりが必要です。

3 地域の都市づくりの方針

便利で快適に暮らせる計画的な都市づくり

- **津田駅周辺の生活サービスなどの都市機能を集積する拠点の形成**
津田駅周辺においては周辺エリアの中心として、生活サービスなどの都市機能の集積を図ります。
- **星ヶ丘駅周辺、村野駅周辺の生活利便の向上を図る拠点の形成**
星ヶ丘駅周辺、村野駅周辺においては生活利便の向上を図ります。
- **鉄道駅周辺における多様な都市機能と調和した良好な居住環境の形成と都市居住の促進**
鉄道駅周辺においては、多様な都市機能と調和した利便性が高く良好な居住環境を形成し、都市居住を促進します。また、村野駅西地区周辺では、鉄道駅による交通利便性の高い立地を生かし、土地区画整理事業により既成市街地と一体となった良好な市街地の形成を促進します。
- **企業団地などの工業集積ゾーンにおける産業の集積**
幹線道路の交通利便を生かし、工業集積ゾーンにおける産業集積を図ります。
- **国道 1 号、国道 307 号、第二京阪道路沿道地域における産業の集積**
幹線道路の交通利便を生かし、国道 1 号、国道 307 号、第二京阪道路の沿道地域における産業集積を図ります。

都市基盤や公共交通ネットワークが充実した都市づくり

- **第二京阪道路の開通に伴う周辺道路の渋滞緩和の促進**
国道 307 号や枚方藤阪線などにおける交通渋滞が地域の課題となっており、その緩和に向けた取り組みを促進します。

安全安心の都市づくり

- **鉄道駅周辺におけるバリアフリー化の促進**
津田駅、星ヶ丘駅及び村野駅周辺の道路や主要な公共施設などにおいては、安全かつ円滑な移動などができるよう、枚方市バリアフリー基本構想の取り組みをはじめとした、バリアフリー化を促進します。

水や緑の豊かな地域資源を生かし、質が高く潤いのある都市づくり

● 第二京阪道路沿道地域のまちづくり

第二京阪道路沿道地域においては、都市計画制度などの活用により、都市農地などの周辺環境と調和のとれたまちなみを創出します。

● 工場の操業環境の維持、増進

工業集積エリアなどにおいては、都市計画制度などの活用により、工場の操業環境の維持や増進を図ります。

● 住宅地と工場の隣接地における環境形成

住宅地と工場が近接する地域には、工場外延部に緩衝緑地帯の設置を誘導するなど、良好な環境形成を図ります。

● 星ヶ丘公園の整備

身近に憩い潤う場所の創出を図るため、星ヶ丘公園の整備を推進します。

● 津田支所周辺などの居住環境の保全

津田支所周辺などの市街化調整区域において、既に形成されている住宅地の居住環境の保全を図ります。

● 歴史文化的資源の保全、活用

村野村高札場や春日神社、伝統的な佇まいを残す出屋敷地区を通過する東高野街道などの歴史文化的資源を保全し、歴史を身近に感じることができるよう活用を図ります。

● 都市農地の保全、活用

都市農地は良好な景観の形成や自然とのふれあいの場、防災機能などの多様な機能を有しており、保全や活用を図ります。

地域別方針図

第1章

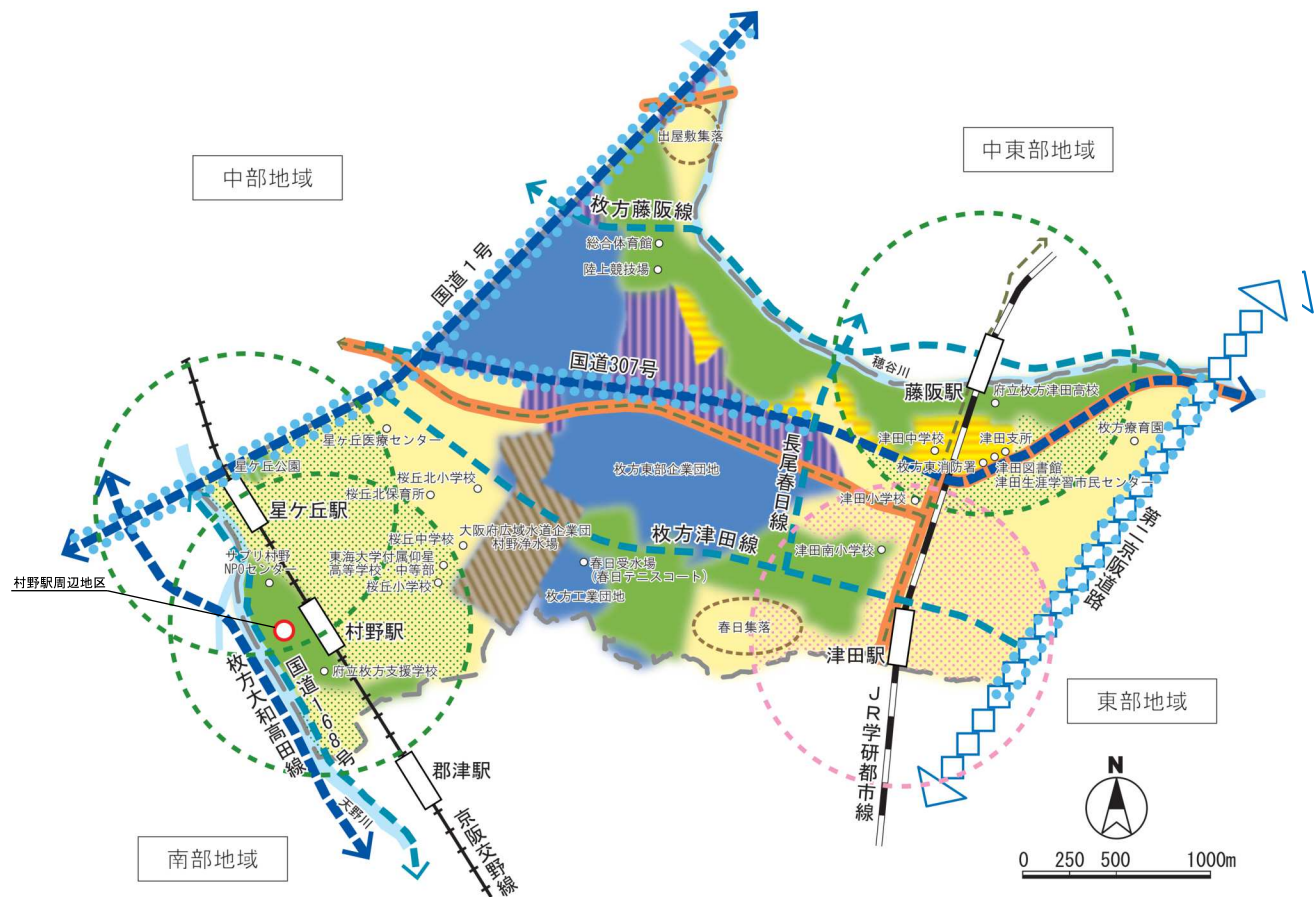
第2章

第3章

5 中南部地域

第4章

付属資料編



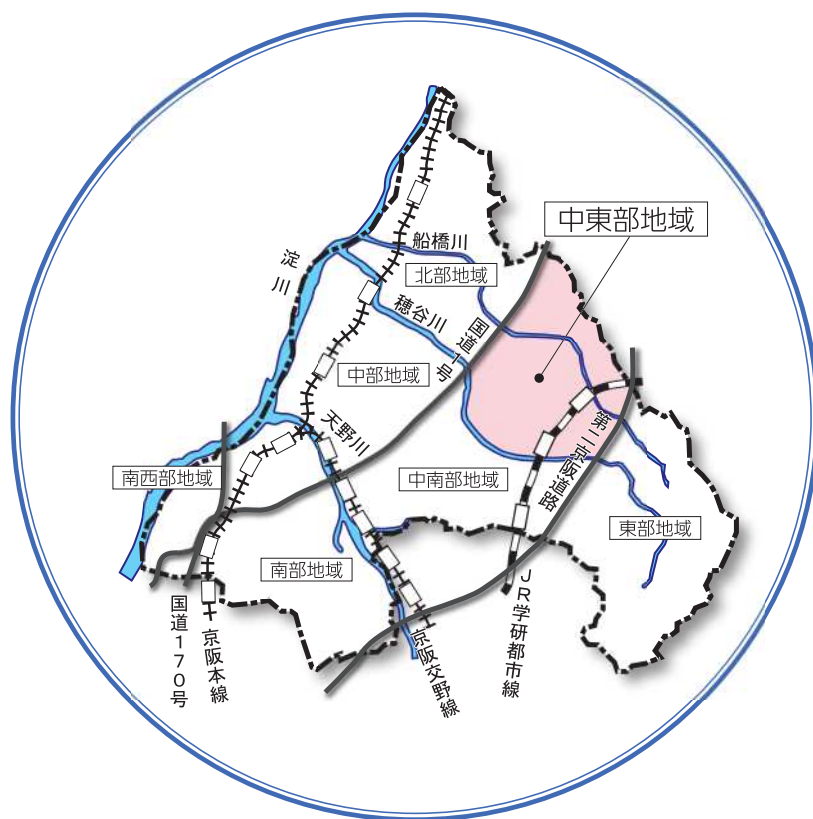
凡例

都市的	都市拠点系	都市機能集積ゾーン
		生活利便ゾーン
	居住系	居住ゾーン
		環境共生居住ゾーン
	産業系	工業集積ゾーン
		住工協調ゾーン
環境保全・留区域		沿道産業集積ゾーン
	自然系	環境共生ゾーン
		村野駅周辺地区

—●—●—●—	JR学研都市線
+++++	京阪交野線
◁□□□▷	広域幹線道路
←---→	幹線道路
←---→	補助幹線道路
—●—●—●—	主要なバス路線
■	都市計画公園(近隣公園)・緑地
■	供給処理施設
■	河川
---	地域界

6 中東部地域

中東部地域は、本市の北東に位置し、一部が京都府八幡市、京田辺市に接しています。面積は約 8.8 平方キロメートルで、長尾丘陵に位置する地域であり、丘陵や谷など変化に富んだ地形となっています。



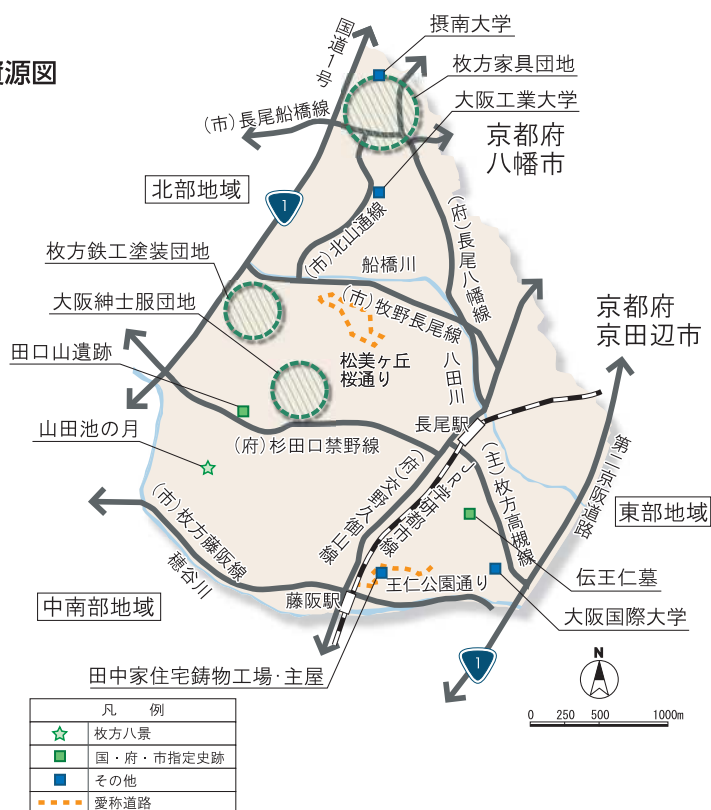
1 地域の状況

1) 地域の特徴・地域資源

穂谷川の扇状地で水はけがよく、野菜や茶を栽培する畑地が広がっていました。山田池は、農業用のため池で下流の甲斐田、片鉾、田口（出屋敷含む）の農業用水を供給してきました。現在はため池を中心とした広域公園として整備されており、この地域の地域イメージ形成に大きく影響しています。昭和40年代には、大阪家具コンビナート工場団地（現枚方家具団地）、大阪既製服団地（現大阪紳士服団地）、そして枚方鉄工塗装団地が進出し、宅地開発も進み、郊外型の住宅地が形成されてきました。近年には摂南大学が開設し、住宅・都市整備公団（現在の独立行政法人都市再生機構）による北山地区開発が進み、大阪工業大学も開設されました。

また、工業地には、枚方鉄工塗装団地、枚方家具団地、大阪紳士服団地が立地しています。歴史文化的資源としては、田中家住宅鋳物工場・主屋のほか伝王仁墓や田口山遺跡などがあります。自然資源としては、地域北東部に比較的大規模な雑木林があり、まとまった農地もみられます。地域の南部には、自然豊かな山田池公園が整備されています。

資源図



長尾駅



枚方家具団地



山田池公園



枚方鉄工塗装団地

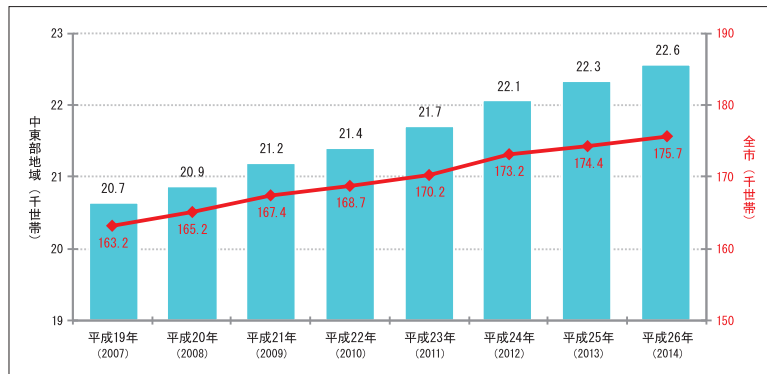
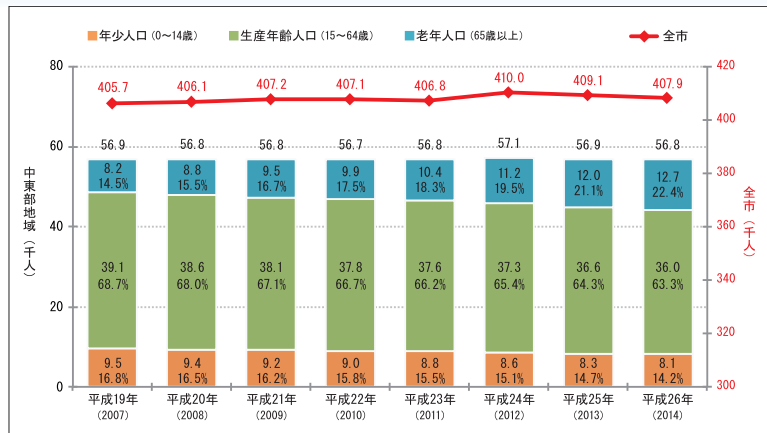


伝王仁墓

2) 人口・世帯数

中東部地域の人口は約5万7千人となっています。7年前と比べ、市全体の人口が約0.5%増加しているのに対し、中東部地域では約百人、約0.2%減少しています。また、平成26(2014)年の高齢者数は約1.3万人、高齢化率は約22.4%となっており、7年前より約7.9ポイント増加しています。

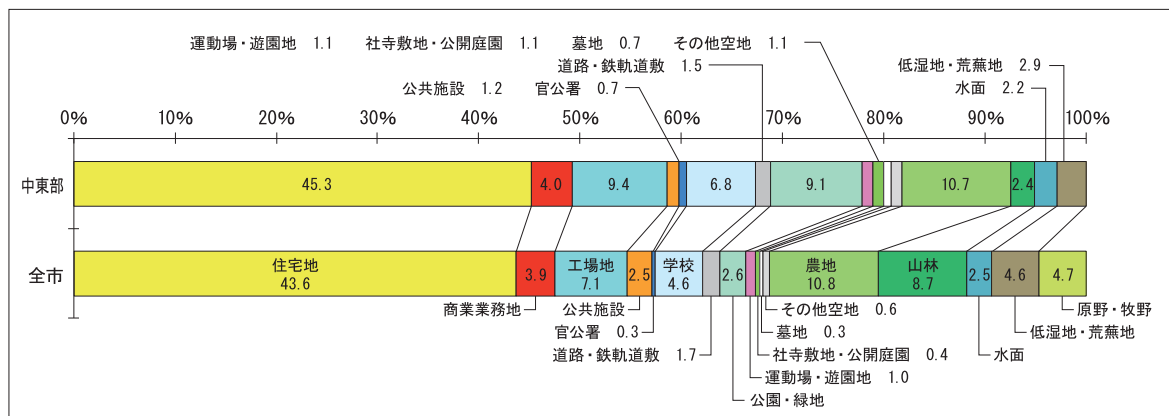
世帯数は7年前に比べ、市全体で約7.7%増加しているのに対し、中東部地域では約2千世帯、約9.2%の増加となっており、市全体より高い増加率で推移しています。



出典：枚方市統計書(平成19年～平成26年)より集計

3) 土地利用

地域の南部には山田池公園や王仁公園が整備されており、公園・緑地の占める割合が高い地域です。地域の約45%を住宅地が占めており、全市平均程度となっています。地域北部には枚方家具団地、地域中央には大阪紳士服団地が位置しており、中南部地域に次いで工業系土地利用の占める割合が高い地域となっています。地域の北部には昭和60年代に始まった土地区画整理事業により整備された良好な住宅地が形成されています。地域北東部と藤阪駅の周辺が市街化調整区域となっており、まとまった農地が広がっています。



出典：都市計画基礎調査(平成22年度) 大阪府調査より集計

4) 都市基盤

交通

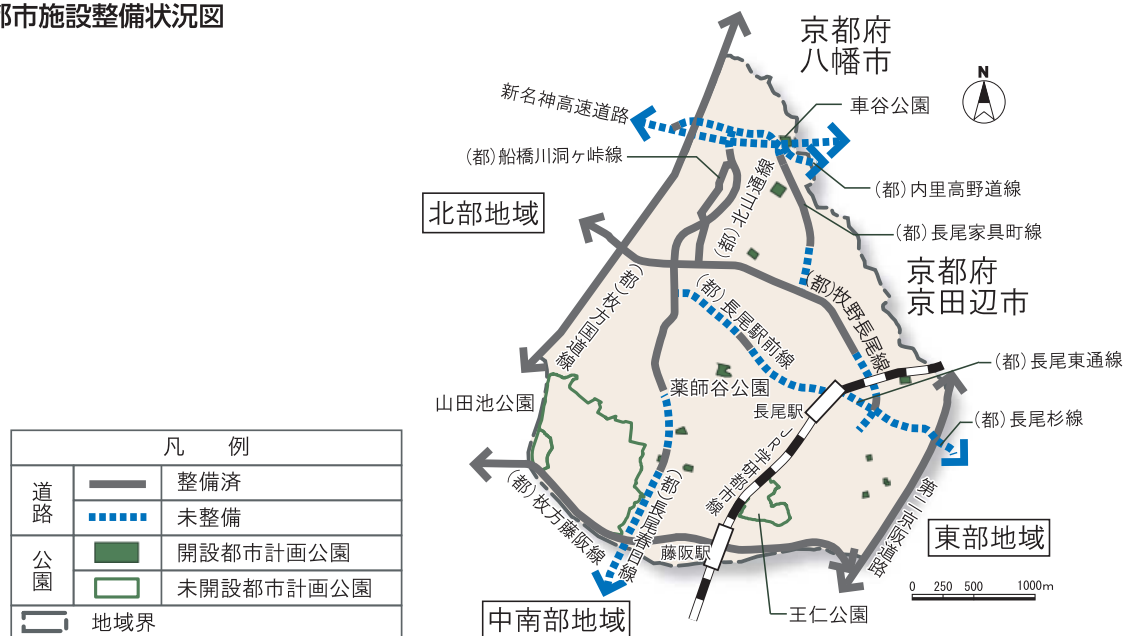
第二京阪道路の開通に伴い、国道 1 号の渋滞は緩和されつつありますが、国道 1 号と交差する高野道船橋線周辺などでは混雑している箇所があります。また、地区北部には国土軸を形成する新名神高速道路の整備が進められています。

主要な交通施設については、長尾駅は駅前広場が西側に整備されたものの、東側においては、牧野長尾線の一部と駅前広場や鉄道駅へアクセスする道路が未整備となっています。

公園

広域公園である山田池公園や総合公園である王仁公園は、面積約 85.4ha で都市計画に定められています。整備済みの合計面積は約 81.0ha で、計画面積に対する開設率は約 95%と高い水準となっています。

都市施設整備状況図



5) 市街地

中東部では、昭和 38（1963）年より長尾藤阪地区で土地区画整理事業が実施され、その後も開発が進み、北山、長尾家具町などでは土地区画整理事業が実施されました。住宅地や企業団地などの整備が進みました。

2 地域の主要課題

❖ 東部の拠点形成

JR 学研都市線による交通利便性の向上や新名神高速道路の全線供用開始に向け、周辺における幹線道路などの整備が進みつつあり、市域東部のポテンシャルの高まりに対応する長尾駅周辺が都市拠点として発展していくことが期待されています。

また、藤阪駅周辺は、自然環境との調和を図りつつ、周辺居住者の生活利便を担うエリアとして活用を図っていくことが求められています。

❖ 道路などの都市基盤の整備

広域都市圏との連携強化、災害時の緊急輸送ルートの確保などが期待される新名神高速道路や、そのアクセス道路となる内里高野道線の広域的な幹線道路の整備などにより、地域の交通利便性が向上することが見込まれます。

また、第二京阪道路の全線開通に伴って発生している国道 307 号などでは交通渋滞が発生しています。

このため、円滑な交通処理などを図るために、道路などの都市基盤の整備を促進していくことが求められています。

❖ 操業環境と居住環境の協調

工業系の用途地域のエリアにおいて、住宅開発などによる住工の混在がみられることから、工業地の操業環境と居住環境の双方の機能が損なわれないように協調することが求められています。

❖ 大阪紳士服団地や枚方家具団地の産業

大阪紳士服団地は、製造から小売機能を持つ加工配送センターへと機能が変化しており、実情に合った土地利用の誘導や整備を図ることが求められています。また、枚方家具団地については製造、小売商業地区にふさわしい環境整備などにより、地域産業の活性化や産業集積を促進することが求められています。

❖ 豊かな自然環境と調和した幹線道路沿道の景観形成、産業集積

本地域の起伏に富んだ地形を生かして、周辺の豊かな自然環境と調和した幹線道路沿道の景観形成、産業集積を図ることが求められています。

3 地域の都市づくりの方針

便利で快適に暮らせる計画的な都市づくり

- 長尾駅周辺の広域的な都市機能を集積する拠点の形成

長尾駅周辺においては、広域エリアの中心となる商業、業務、医療などの多様な都市機能の集積を図ります。

- 藤阪駅周辺の生活利便の向上を図る拠点の形成

藤阪駅周辺においては生活利便の向上を図ります。

- 多様な都市機能と調和した良好な居住環境の形成と都市居住の促進

多様な都市機能と調和した利便性が高く良好な居住環境を形成し、都市居住を促進します。

- 枚方家具団地周辺の地域産業の活性化

枚方家具団地周辺は、幹線道路の交通利便を生かし、地域産業の活性化を図ります。

- 企業団地や国道1号、第二京阪道路沿道地域における産業の集積

幹線道路の交通利便を生かし、企業団地や、国道1号、第二京阪道路の沿道地域における産業集積を図ります。

都市基盤や公共交通ネットワークが充実した都市づくり

- 新名神高速道路の整備促進

広域都市圏との連携強化、災害時の緊急輸送ルートの確保などが期待される新名神高速道路の整備を促進します。

- 内里高野道線の整備促進

新名神高速道路のアクセス道路となる内里高野道線や、それに関連する道路、公園の整備を促進します。

- 長尾杉線の実現化

第二京阪道路の全線開通に伴って発生している交通渋滞の緩和や新名神高速道路などの高速道路ネットワーク及び長尾駅周辺地区へのアクセス性の向上などを図るとともに、災害時の支援活動における拠点となる東部公園などへ連絡する長尾杉線の実現に向けて取り組みます。

- 長尾駅周辺の交通機能の強化

中東部地域の拠点として、長尾駅前広場などの交通結節点整備や交通機能の強化を図ります。

- 牧野長尾線の整備

東部地域における長尾駅前や府道などの周辺道路の交通渋滞を緩和し、交通の円滑化や安全な歩行空間の確保などを図る牧野長尾線の整備を進めます。

- 長尾春日線の整備

生活道路への通過交通の進入を抑制するとともに、広域避難地である「山田池公園」へのアクセス性の向上や安全な歩行空間の確保などを図る長尾春日線の整備を進めます。

安全安心の都市づくり

● 鉄道駅周辺におけるバリアフリー化の促進

長尾駅及び藤阪駅周辺の道路や主要な公共施設などにおいては、安全かつ円滑な移動などができるよう、枚方市バリアフリー基本構想の取り組みをはじめとした、バリアフリー化を促進します。

● 都市計画道路における歩行者、自転車の通行空間の確保

新たに道路整備を行う長尾杉線、長尾春日線などの都市計画道路においては、通学路などの安全な歩行者空間、自転車の通行空間の確保などを図ります。

水や緑の豊かな地域資源を生かし、質が高く潤いのある都市づくり

● 第二京阪道路沿道地域のまちづくり

第二京阪道路沿道地域においては、都市計画制度などの活用により、都市農地などの周辺環境と調和のとれたまちなみを創出します。

● 住宅地と工場などが混在する地域の調和

住宅地と商業、工場などの土地利用が混在している地区では、地域の実情に応じ、住民と企業が協調し地区計画制度の活用を検討するなど、共存できる環境づくりを図ります。

● 山田池公園や王仁公園の活用

山田池公園や王仁公園は市街地の中のレクリエーションや憩いの空間として、引き続き維持や活用を図ります。

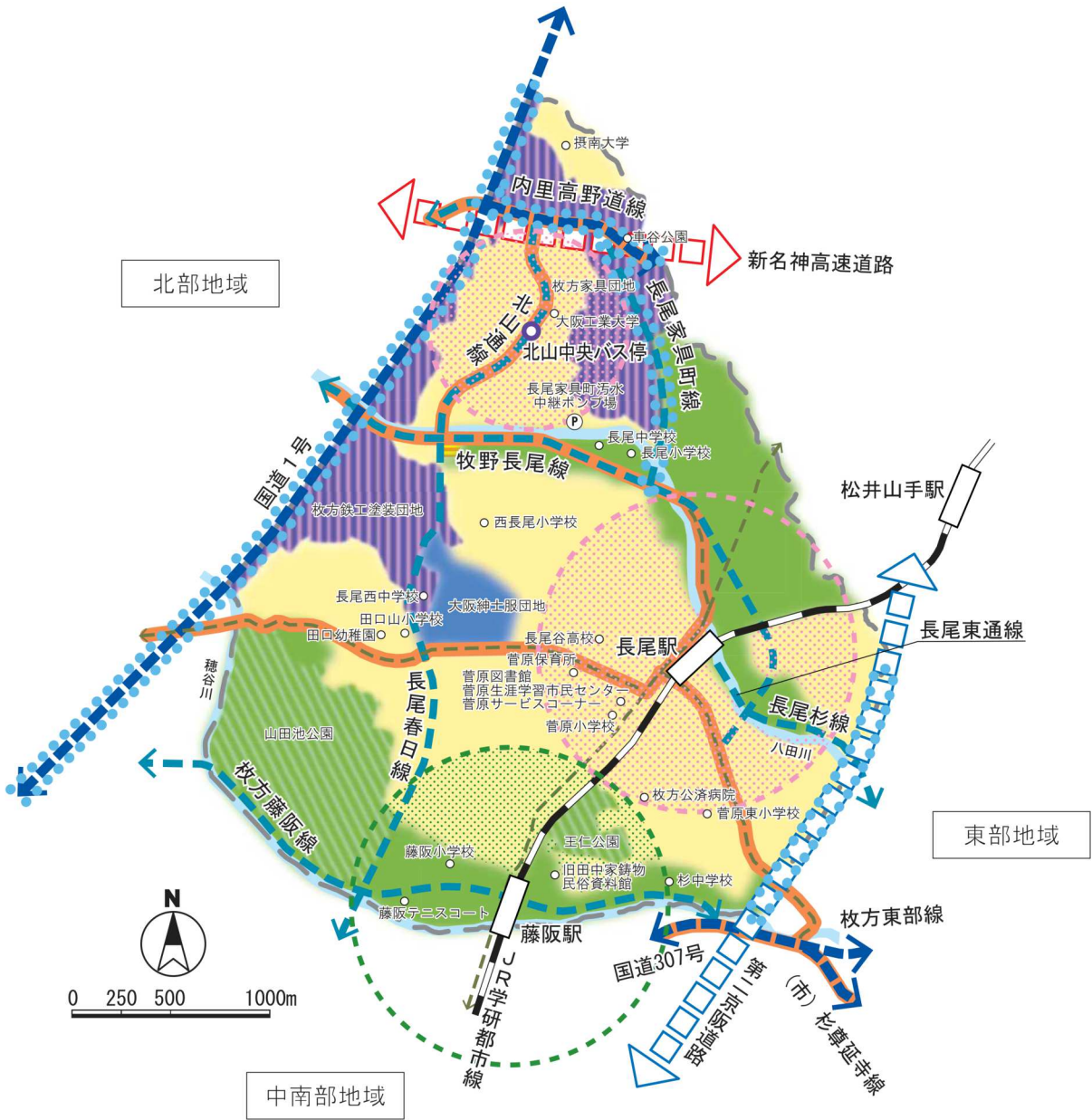
● 歴史文化的資源の保全、活用

田中家住宅・鋳物工場・主屋や田口山遺跡などの歴史文化的資源を保全し、歴史を身近に感じることができるよう活用を図ります。

● 都市農地の保全、活用

都市農地は良好な景観の形成や自然とのふれあいの場、防災機能などの多様な機能を有しており、保全や活用を図ります。

地域別方針図



凡例

都市的	都市拠点系		都市機能集積ゾーン
			生活利便ゾーン
	居住系		居住ゾーン
			環境共生居住ゾーン
	産業系		工業集積ゾーン
			住工協調ゾーン
環境保全	自然系		沿道産業集積ゾーン
			環境共生ゾーン

	JR学研都市線
	国土幹線道路
	広域幹線道路
	幹線道路
	補助幹線道路
	主要なバス路線
	都市計画公園(近隣公園)・緑地
	ポンプ場
	河川
	地域界

7 東部地域

東部地域は、本市の最東部に位置し、一部が交野市、京都府京田辺市、奈良県生駒市に接しています。面積は約 11.9 平方キロメートルで、地域内の標高差が約 260m と大きく、国道 307 号沿道と穂谷の集落は約 110m の高低差があります。地域南東部の山地は近畿圏整備法により、近郊緑地保全区域の指定を受けています。



1 地域の状況

1) 地域の特徴・地域資源

東部地域には里山など豊かな自然地が広がり、近畿圏整備法の近郊緑地保全区域に指定されています。

氷室は生駒山系の延長部で穂谷川が南東から北西に流れています。本地域には標高100～150mに位置する3つの集落（穂谷、尊延寺、杉）があります。穂谷はかつて大和棟（やまとむね）の家屋が点在していました。また、農事組合法人枚方畜産組合団地がつくられ酪農に取り組まれているほか、キャンプなどのレクリエーションが楽しめる野外活動センターも立地しています。

本地域には、関西文化学術研究都市※¹（津田サイエンスヒルズ※²）などが立地しています。歴史文化的資源として、厳島神社末社春日神社本殿や三之宮神社、尊延寺などがあります。自然資源として、生駒山系からつくづく山間部が広がり、里山や田園など豊かな自然が多く残っている地域です。

資源図



※ 1：関西文化学術研究都市

関西文化学術研究都市は、京都府、大阪府、奈良県にまたがる木津川左岸の京阪奈良丘陵地域に位置し、近畿圏はもとより、我が国及び世界の発展に大きく寄与する国家プロジェクトとして、関西文化学術研究都市建設促進法に基づき建設された文化・学術・研究の拠点です。

※ 2：津田サイエンスヒルズ

関西文化学術研究都市の文化学術研究地区の1つで、津田地区の文化学術研究ゾーンとして位置づけられています。津田サイエンスヒルズは、枚方市の中心部から東へ約6km、生駒山系北端部の裾野に広がる丘陵地に位置しています。



津田サイエンスヒルズ



里山と田園風景



東部清掃工場



野外活動センター

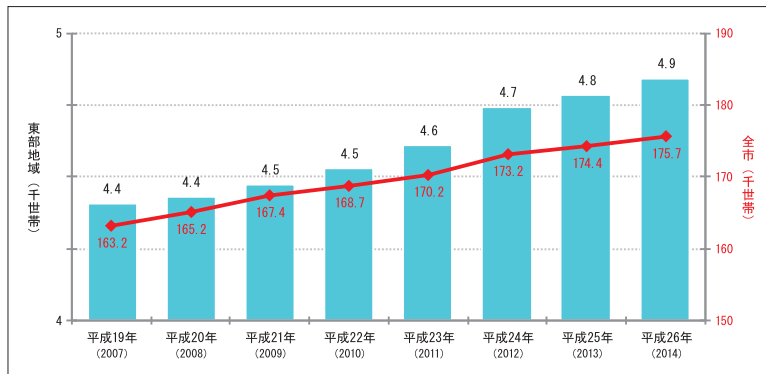
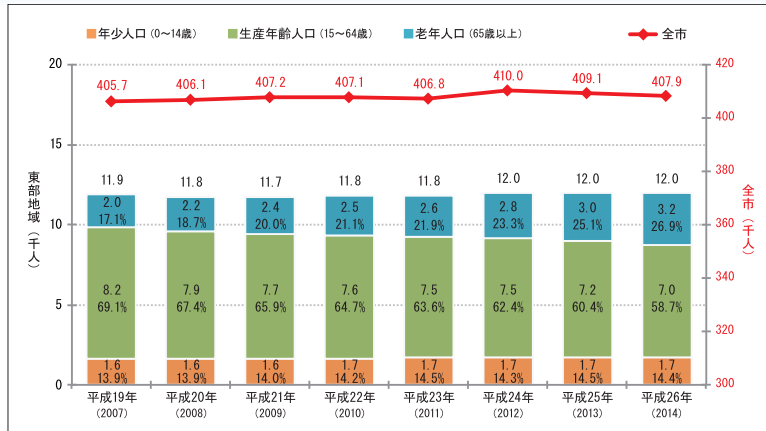


三之宮神社

2) 人口・世帯数

東部地域の人口は約1万2千人となっています。7年前と比べ、市全体の人口が約0.5%増加しているのに対し、東部地域では約百人、約0.8%増加しています。また、平成26(2014)年の高齢者数は約3千人、高齢化率は約26.9%、7年前より約9.8ポイント増加しており、7地域で最も高い増加率を示しています。

世帯数は7年前と比べ、市全体で約7.7%増加しているのに対し、東部地域では約5百世帯、約11.4%の増加となっており、市全体より高い増加率で推移しています。

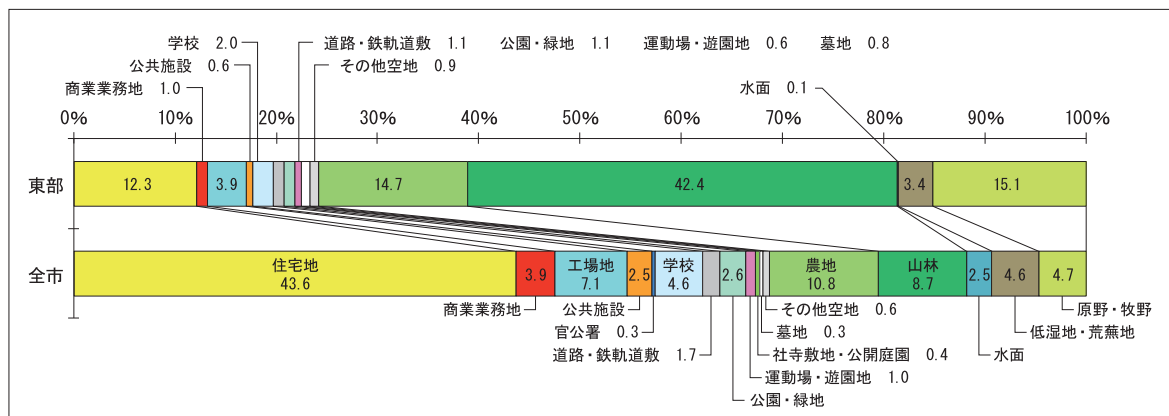


出典：枚方市統計書（平成19年～平成26年）より集計

3) 土地利用

地域の南部が近郊緑地保全区域や農業振興地域に指定されており、農地や山林などが地域全体の約3/4を占めている自然的資源に恵まれている地域で、住宅地は地域の約12%にとどまります。第二京阪道路沿道には関西文化学術研究都市の津田サイエンスヒルズが位置しており、生駒山系と調和した緑豊かで丘陵地を生かした良好な操業環境が形成されています。

市街化区域は、第二京阪道路沿道と地域の東部の国道307号沿道に位置しており、地域全体に占める割合は約15%となっています。



4) 都市基盤

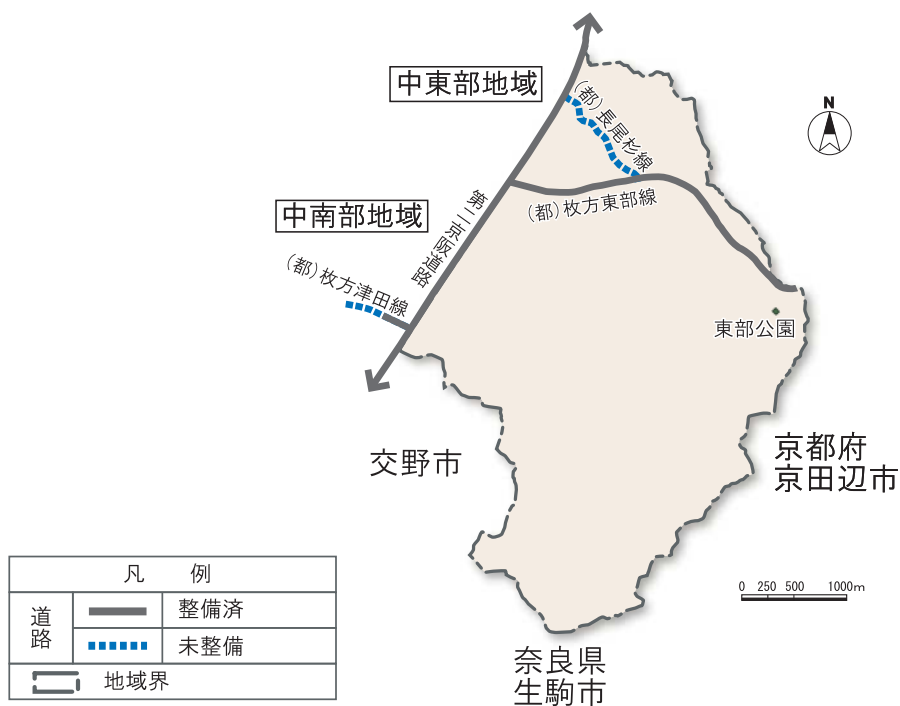
交通

枚方東部線の開通により国道 307 号などでは一定の渋滞緩和が見受けられますが、第二京阪道路の全線開通による影響を受け、周辺道路では新たな交通渋滞などが発生しています。

公園

東部地域には都市計画公園はありませんが、周辺の豊かな自然と調和し、スポーツ機能を備えた東部公園の整備が進みつつあります。

都市施設整備状況図



5) 市街地

昭和 40 年代中ごろから、開発事業などにより住宅地の整備が行われました。平成 10(1998)年より、津田サイエンスヒルズ地区において、研究施設などの誘致が進められ、現在は研究・商品開発機能を備えた企業や大学研究施設が集積しています。

2 地域の主要課題

❖ 幹線道路の新たな道路渋滞への対応

第二京阪道路の全線開通により、周辺都市への交通利便性が向上するとともに生活道路内の通過交通の流入が大幅に減少していますが、その一方で、国道307号などにおける第二京阪道路との交差点部では新たな交通渋滞が発生しています。

❖ 関西文化学術研究都市にふさわしい拠点づくり

関西文化学術研究都市（氷室・津田地区）では、産・学・公が連携し科学技術の発展と産業の振興を目的とした「知の創造都市」の形成をめざし、自然共生型の文化学術研究地区にふさわしい拠点機能の強化を図ることが求められています。

❖ 里山などの豊かな自然環境の保全・整備・活用

東部地域の里山は、人と自然との関わり合いの中で形成されてきた豊かな自然環境が広がっています。里山の耕作地や森林の管理が行き届いていない状況や自然環境が悪化している状況であるため、里山の自然環境を保全し、活用していく取り組みが求められています。

❖ 集落景観・田園景観の保全

地域南部の穂谷地区では「いらか」の続く美しい家並みが残されており、その周辺には四季折々に表情が移り変わる棚田が広がっています。集落景観と田園景観の一体的な保全を図り、地域特性を生かした魅力ある景観を形成していくことが求められています。

❖ スポーツ、レクリエーションの機能の維持、充実

広域的に人々が集い、スポーツを楽しむことでスポーツの振興とスポーツを通じた交流促進を図るため、周辺環境と調和したスポーツ施設の整備などが求められています。

キャンプなどが楽しめる野外活動センターが既に立地しており、レクリエーション機能の維持、充実を図ることが求められています。

3 地域の都市づくりの方針

便利で快適に暮らせる計画的な都市づくり

- 関西文化学術研究都市にふさわしい産業・文化の集積

関西文化学術研究都市津田・氷室地区における産業・文化の集積を図ります。

- 第二京阪道路沿道地域における産業の集積

幹線道路の交通利便を生かし、第二京阪道路の沿道地域における産業集積を図ります。

都市基盤や公共交通ネットワークが充実した都市づくり

- 長尾杉線の実現化

第二京阪道路の全線開通に伴って発生している交通渋滞の緩和や新名神高速道路などの高速道路ネットワーク及び長尾駅周辺へのアクセス性の向上などを図るとともに、災害時の支援活動における拠点となる東部公園などへ連絡する長尾杉線の実現に向けて取り組みます。

- 住みよい生活環境の確保

市民の快適で住みよい生活環境を確保し、排出されるごみの処理をするために東部清掃工場の長寿命化対策や定期的な補修などによる適切な維持管理や整備を図ります。

安全安心の都市づくり

- 安全な歩行空間の確保

(主) 枚方山城線などの道路において安全な歩行空間の確保などを促進します。

水や緑の豊かな地域資源を生かし、質が高く潤いのある都市づくり

- 里山の保全、活用

良好な景観の形成や防災機能、自然とのふれあいの場など多様な機能を有する里山においては、保全配慮地区を新たに指定するとともに、これまでの法などによる保全策を適用するなどにより保全を図ります。

また、里山の魅力の情報提供や農産物など里山でとれる資源による地産地消の促進など、里山の活用強化を図るとともに、里山の良好な自然環境を守るため、里山保全活動への支援を図るなど、里山の維持管理を強化します。

- 農地の保全、活用

地域南部には、市域で唯一の農業振興地域である穂谷地区の農地が広がっており、周辺環境と調和した棚田と農村集落が美しい田園景観を形成していることから、こうした優良な農地をはじめとし

た農地の保全と農業振興を図ります。

- **東部公園の整備、活用**

東部公園は本格的な野球場を備えており、スポーツの振興や憩いの場として整備を図ります。

- **第二京阪道路沿道地域のまちづくり**

第二京阪道路沿道地域においては、都市計画制度などの活用により、生駒山系の豊かな緑などの周辺環境と調和のとれたまちなみを創出します。

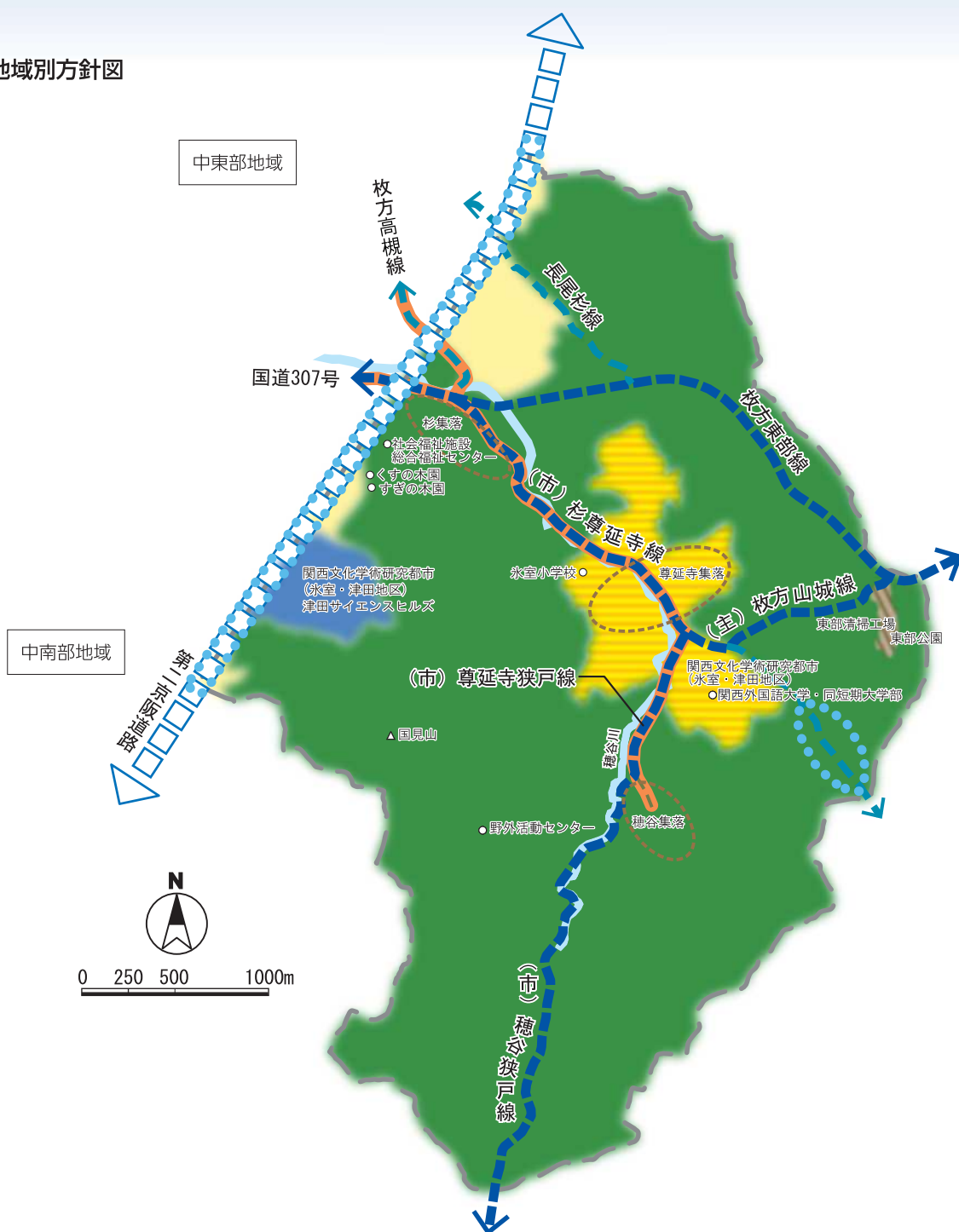
- **自然を感じることのできるレクリエーションの場の維持、活用**

野外活動センター、第二京阪道路の自転車歩行者道などは身近に自然を感じることができるレクリエーションの場として、維持や活用を図ります。

- **歴史文化的資源の保全、活用**

巖島神社末社春日神社本殿や三之宮神社などの歴史文化的資源を保全し、歴史を身近に感じることができるように活用を図ります。

地域別方針図



凡例

都市的	居住系		居住ゾーン
			環境共生居住ゾーン
	産業系		工業集積ゾーン
			沿道産業集積ゾーン
環境保全	自然地・ 農地		自然環境・農地ゾーン

	広域幹線道路
	幹線道路
	補助幹線道路
(主)	主要地方道
(市)	市道
	主要なバス路線
	その他主要な公園など
	供給処理施設
	河川
	地域界